

# 基礎分野

## 基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報科学		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	2単位 30時間
開講学期	1年次 2学期		
講師名			
科目目標	統計の基礎的概念を理解し、統計的な見方、考え方を学び、保健統計の意味を正確に理解できる力を養うと共に、看護研究における情報の処理分析ができる基礎的能力を身につける		
	授業内容	備考	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報科学とは何か             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報科学</li> <li>2) 倫理的課題</li> </ol> </li> <li>2. 統計学の基礎知識             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 統計とは</li> <li>2) 統計データの種類と収集方法</li> <li>3) データの傾向をとらえる                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 要約統計量</li> <li>(2) 確率と分布</li> <li>(3) 母集団と標本</li> <li>(4) 検定</li> </ol> </li> <li>4) 仮説と検証</li> </ol> </li> <li>3. コンピューターの基本操作             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全な利用</li> <li>2) 適切なコミュニケーション（メール・データ共有）</li> </ol> </li> <li>4. コンピュータによるデータ処理             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) エクセル・パワーポイント・ワードの基本操作</li> <li>2) 統計処理</li> <li>3) 表・図の作成</li> <li>3) とりまとめの方法</li> </ol> </li> <li>5. 保健統計の見方・考え方</li> </ol>	<p>&lt;関連科目&gt; 論理的思考</p> <p>&lt;演習項目&gt; 1. 統計処理 2. 表・図の作成</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	看護情報学:医学書院 講師資料		

授業科目	論理的思考		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	1. 事実や事柄を正確に把握し、客観的・科学的な判断能力を身につけるための論理的思考の能力を養う 2. 看護を系統づけた思考で整理し、わかりやすく文章表現できる基礎的能力を身につける		
	授業内容	備考	
	1. ガイダンス-論理的思考と文章表現について 2. 判断・推理・三段論法（帰納法と演繹法） 3. 論理三法則（同一性・排中律・矛盾律） 4. 条件法 5. ベン図とド・モルガンの法則 6. 記号論理について 7. 弁証法論理について 8. 詭弁論理について 9. 論理的思考の整理法（MECEとKJ法）について 10. 看護学生のための科学的作文レッスン（文章表現の実践） <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 日本語の特徴について</li> <li>2) 文の種類と主語・述語関係について</li> <li>3) 修飾関係と文意の明確化</li> <li>4) 段落の構成と段落間の論理</li> <li>5) 論文の目的・方法・結果の記述法</li> <li>6) 報告書の書き方</li> </ul>	<関連科目> 文学 情報科学  <演習項目> 1. 三段論法 2. 条件法 3. ベン図 4. 記号論理 5. 日本語の特徴 6. 文章表現	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	看護学生のための科学的作文レッスン:医学書院 講師資料		

授業科目	教育学			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	人間形成における教育の役割・機能を理解し、看護における教育的機能を果たすために必要な基礎的知識を身につけるとともに、自己学習力の必要性が理解できる			
	授業内容			備考
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育とは何か：教育という営みを概念的に理解できる</li> <li>2. 人権としての教育：学ぶこと、教育を受けることの大切さを知り、教育の意義を理解できる</li> <li>3. 発達と認知：人間の成長と発達の特徴、認知と発達の理論を理解できる</li> <li>4. 生涯学習社会と成人学習：自己研鑽のため、経験を学習の資源として、自律的な問題解決に向けた学習の必要性を理解できる</li> <li>5. 教えることと学ぶこと：コーチングの技法を学び、教育対象が学習目標を達成できるよう支援できるようになる</li> <li>6. 学校における現代的健康課題：学校における現代的健康課題の実情について、身体・心理・社会の側面から把握できる</li> <li>7. インクルーシブ教育と特別支援教育：障害者など特別の支援を必要とする者への理解と、特別支援教育の特徴や制度を理解できる</li> <li>8. 看護にいかす教育学：これまでの授業のふり返しから教育と看護の関係について理解することができる</li> </ol>			<関連科目> 人間関係論 心理学 論理的思考 社会学
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	講師資料			

授業科目	医学・看護英語			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次	1学期		
講師名				
科目目標	国際化に対応するために、医療・看護の現場で使われる基礎的英単語を理解するとともに、日常的な会話及び臨床現場での英会話能力を身につける			
	授業内容			備考
	<p>1. Introduction - Greetings - P/B Sounds Handouts: How to Control Conversation - P/B &amp; Th Sounds - Why do you want to be a nurse?</p> <p>2. Th Sound - Self Introduction (Name - Date of Birth - etc.) Handouts: Numbers - Student to Student Interview - Parts of the Body</p> <p>3. Review Parts of the Body - R/L Sounds - Using Gestures Handouts: R/L &amp; S/Sh Sounds - It's an Animal - Medical Crossword Puzzle</p> <p>4. S/Sh Sounds - Review Medical Crossword Puzzle Handouts: Medical Equipment</p> <p>5. F/V Sounds - Review Medical Equipment Handouts: F/V &amp; W/Wh Sounds - Interviewing New Patient</p> <p>6. W/Wh Sounds - Review Sounds Handouts: Matching Pictures</p> <p>7. Hearing Test - Review Handouts: Hearing Test</p> <p>8. Final Examination</p>			<p>&lt;関連科目&gt; 解剖生理学 基礎看護学</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	講師資料			

授業科目	英語論文講読		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名	鈴木 英之		
科目目標	英文文献や資料を読み取る力を身につけ看護について国際的視野に立って専門的知識を得ることができる能力を身につける		
	授業内容	備考	
	1. Concepts about Humans and Human Functions 2. Current Topics in Health and Medicine 3. Roles of Health Care Personnel 4. Assessing and Supporting Health 5. Current Topics in Therapeutics 6. Ethical and Legal Concerns	<関連科目> 医学・看護英語	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	英語で学ぶ医療と健康 新訂版：朝日出版社		

## 基礎分野（人間と生活・社会の理解）

授業科目	社会学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次 2学期		
講師名			
科目目標	社会と人間の関わりを学び、社会的存在としての人の理解を深めるとともに、社会の変化に伴う人間の価値観や生活様式、家族機能の変化を知り、社会環境と人間の相互作用を理解できる		
	授業内容	備考	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会のなかの人間             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会学とは何か</li> </ol> </li> <li>2. 社会の変化が人に及ぼす影響             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現代社会をキャッチする</li> <li>2) 学校から職業へ</li> <li>3) 教育と社会学</li> </ol> </li> <li>3. 現代社会の構造と特徴             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 氾濫する親密性</li> <li>2) 親密性の本性とその行方</li> </ol> </li> <li>4. 現代社会における家族の構造と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 豊かな社会と不平等</li> <li>2) 豊かな社会と階層社会学</li> </ol> </li> <li>5. ジェンダーからみた現代社会             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ジェンダーと社会</li> </ol> </li> <li>6. 現代社会における諸問題             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リスク社会の克服</li> <li>2) 21世紀社会における幸福</li> </ol> </li> </ol>	<関連科目> 人間関係論 倫理学 教育学	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	社会学ドリル この理不尽な世界の片隅で：新曜社		

授業科目	心理学			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	人の体験と行動の発生と発達のプロセス、法則、背景のメカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識の習得する			
	授業内容			備考
	1. 心理学における人間理解① 心理学とは（心理現象と心理メカニズム、意識と行動） 2. 感覚と知覚 3. 記憶・自己 4. 心理学における人間理解② 研究法（共感的理解と客観的理解、理論とモデル、科学とエビデンス 相関と因果、調査と実験） 5. 思考・言語・知能 6. 学習 7. 感情と動機づけ・報酬系 8. 性格とパーソナリティ 9. 社会と集団 10. 発達 11. 心理臨床①（ストレス・アセスメント・精神障害） 12. 心理臨床②（心理療法・危機介入・家族・コミュニティ） 13. 医療・看護と心理 14. 心理学における人間理解③（心理学史：心のモデル） 15. 試験・まとめ			<関連科目>  人間関係論 教育学 精神看護学概論
評価の方法	筆記試験（客観テスト）			
テキスト	心理学：医学書院			

授業科目	倫理学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	倫理学の古典や人間らしいあり方をめぐって論争がおこっている生命倫理の問題を取り上げ、人間らしさとは何かを考える		
	授業内容	備考	
	1. 倫理学の課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 一致としての善</li> <li>2) 黄金律</li> </ul> 2. 西田幾多郎の人間論 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 主客合一としての人間存在</li> </ul> 3. 生命倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 安楽死問題</li> <li>2) インフォームドコンセント</li> <li>3) 患者の自己決定権</li> <li>4) 死の自己決定権</li> <li>5) 共同体主義的人間観</li> <li>6) 個人主義的人間観</li> </ul> 4. 和辻哲郎の人間論 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 間柄としての人間存在</li> </ul> 5. 対立しあう人間像の統一	<関連科目> 論理的思考 心理学	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	講師資料		

授業科目	人間関係論		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	自分自身の人間関係やコミュニケーションの傾向とそれらが他者に及ぼす影響を理解し、人間関係を形成する基礎的な能力（対話力・協働力・解決力）を養う		
	授業内容	備考	
	<p>1. 人間存在と人間関係</p> <p>1) 人間関係のとらえ方の次元</p> <p>2) 人間関係の基本的意義</p> <p>2. 社会的役割と人間関係</p> <p>1) 社会的相互作用</p> <p>(1) 自己理解、他者理解</p> <p>(2) 自己開示</p> <p>2) 社会的役割</p> <p>3. コミュニケーション</p> <p>1) コミュニケーションの基本概念と構造</p> <p>2) コミュニケーションの障害</p> <p>3) 人間関係形成の基本的な力</p> <p>4. 集団のダイナミクス</p> <p>1) 集団の働き</p> <p>2) グループワークと集団の生産性</p> <p>3) コンセンサスによる意志決定</p> <p>5. リーダーシップ</p> <p>1) 小集団とリーダーシップ</p> <p>2) リーダーシップと小集団のダイナミクス</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>心理学</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	人間関係論:医学書院		

授業科目	異文化関係論		
教育方法 開講学期	講義 ・ 演習 1年次 1学期	単位・時間数	1単位 15時間
講師名			
科目目標	異なる考え方や異なる文化をもつ人々を理解し、多文化共生社会における課題を考える		
授業内容		備考	
1. コミュニケーションの見方、教科書 pp.10-22. 2. マインドフル、教科書 pp.23-29. 3. 不安、教科書 pp.30-38. 4. 不確実性、教科書 pp.39-47. 5. 個人の変容：個人主義、教科書 pp.50-60. 6. 個人の変容：その他の文化的変異、教科書 pp.61-70. 7. 人材育成プログラム、教科書 pp.72-78. 8. 試験		<関連科目> 人間関係論 社会学	
評価の方法	筆記試験70% 確認チェック30%		
テキスト	グローバル社会のヒューマンコミュニケーション:八朔社		

授業科目	生活科学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	人間の生活・動きを科学的に思考するとともに、生活の中にある物理の基本法則を学び、看護に必要な知識を身につける		
	授業内容	備考	
	1. 力 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 力の表現</li> <li>2) 力の単位</li> <li>3) 力の計算</li> <li>4) 力のつり合い</li> </ul> 2. トルク <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 力とトルク</li> <li>2) トルクのつり合いと静止の条件</li> <li>3) てこの原理</li> <li>4) 身体におけるトルク</li> </ul> 3. 人体の力学（ボディメカニクス） <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 筋肉の収縮</li> <li>2) 重いものを動かすには</li> <li>3) 摩擦</li> </ul> 4. 圧力 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 力と圧力</li> <li>2) 大気圧と水圧</li> <li>3) パスカルの原理とサイフォン・点滴の物理</li> </ul> 5. 循環器の物理 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 圧力と流量</li> <li>2) 血圧</li> <li>3) 収縮期圧と弛緩期圧</li> <li>4) 血圧の測定</li> </ul> 6. 体温調節の物理 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 熱と温度</li> <li>2) 熱容量と熱伝導</li> <li>3) 体温測定 体温の調節</li> </ul> 7. 放射線 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 放射線と放射能      2) 放射線の種類</li> <li>3) 放射線の性質</li> <li>4) 放射線の単位</li> <li>5) 放射線の利用</li> </ul>	<関連科目> 基礎看護学	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する:学研		

授業科目	保健体育		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	1. 運動と健康の関連を理解し、体力を増強し、健全な心身の発達を図る。 2. 集団でのチームワーク、リーダーシップを身につける		
授業内容		備考	
1. 運動と健康 1) 運動の意義 2) 運動と健康の関連  2. レクリエーション 1) レクリエーションの意義 2) レクリエーションゲーム  3. 実技		<関連科目> 人間関係論 栄養学	
評価の方法	実技試験、筆記試験、レポート等		
テキスト	講師資料		

# 專門基礎分野

## 専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学 I		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次	1学期	
講師名			
科目目標	人体の構造や機能を細胞レベルで学び、その成長段階と人体の生命維持機能および生殖機能を理解する		
	授業内容	備考	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構造と機能からみた人体             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 構造からみた人体</li> <li>2) 機能からみた人体</li> </ol> </li> <li>2. 人体の素材としての細胞・組織             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞の構造</li> <li>2) 分化した細胞がつくる組織</li> </ol> </li> <li>3. 血液の成分と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血液の働き</li> <li>2) 止血機能</li> <li>3) 血液型</li> </ol> </li> <li>4. 外部環境からの防御機構             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 非特異的防御機構</li> <li>2) 特異的防御機構</li> <li>3) 体温とその調節</li> </ol> </li> <li>5. 生殖・発生と老化のしくみ             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 男性生殖器</li> <li>2) 女性生殖器</li> <li>3) 受精と胎児の発生</li> <li>4) 成長と老化</li> </ol> </li> <li>6. 人間の死             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 死の三徴候</li> <li>2) 死亡判定</li> <li>3) 脳死</li> </ol> </li> </ol>	<p>&lt;関連科目&gt;            生化学            疾病治療論            医療概論</p> <p>・解剖模型、モデル等を活用し、イメージ化を図る</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	講師資料 解剖生理学：医学書院、解剖生理学ワークブック：医学書院 からだの地図帳：講談社 病理学：医学書院		

授業科目	解剖生理学Ⅱ			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	1年次	1学期		
講師名				
科目目標	人体の循環器系、泌尿器系、血液の構造や機能を系統的に学ぶ			
授業内容				備考
<p>1. 循環器系（血液の循環とその調節）</p> <p>1) 心臓の構造</p> <p>2) 心臓の機能（心筋、刺激伝導系、拍出機能）</p> <p>3) 血管の構造（動脈系と静脈系、肺循環と体循環）</p> <p>4) 血液の循環とその調節（冠循環、脳循環、脈拍、血圧）</p> <p>5) 胎児の血液循環</p> <p>6) リンパ管の構造と機能</p> <p>2. 体液とホメオスタシス</p> <p>1) 内部環境とホメオスタシス</p> <p>2) 体液</p> <p>3. 泌尿器系</p> <p>1) 尿の生成</p> <p>（1）腎臓の構造</p> <p>（2）尿生成のメカニズム（濾過、再吸収と分泌）</p> <p>（3）腎臓から分泌される生理活性物質</p> <p>2) 尿の貯蔵と排尿</p> <p>（1）排尿路の構造（尿管、膀胱、尿道）</p> <p>（2）尿の貯蔵と排尿</p> <p>3) 細胞外液の調節</p>				<p>臨床看護総論</p> <p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>生化学</p> <p>疾病治療論</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	<p>講師資料</p> <p>解剖生理学：医学書院、解剖生理学ワークブック：医学書院</p> <p>からだの地図帳：講談社</p>			



授業科目	解剖生理学Ⅳ			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	1年次	1学期		
講師名				
科目目標	人体の消化器系、骨筋系、感覚器系の構造や機能を系統的に学ぶ			
	授業内容			備考
	<p>1. 消化器系の構造と機能</p> <p>1) 消化器系の構造と運動</p> <p>2) 嚥下</p> <p>(1) 咽頭の構造と機能</p> <p>(2) 食道の構造と機能</p> <p>3) 消化と吸収</p> <p>(1) 腹部消化管の構造と機能</p> <p>(2) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能</p> <p>(3) 腹膜と腸間膜</p> <p>2. 骨・筋肉系の構造と機能</p> <p>1) 骨の構造と機能</p> <p>2) 関節の構造と機能</p> <p>3) 骨格筋の構造と機能</p> <p>4) 姿勢(体位と構え)</p> <p>3. 感覚器系の構造と機能</p> <p>1) 耳の構造と聴覚・平衡覚</p> <p>2) 鼻の構造と嗅覚</p> <p>3) 眼の構造と視覚、色覚</p> <p>4) 歯・口腔の構造と味覚(う歯、歯周病含む)</p> <p>5) 皮膚の構造と体性感覚</p>			<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>生化学</p> <p>疾病治療論</p> <p>・内臓感覚も含む</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	<p>解剖生理学：医学書院、解剖生理学ワークブック：医学書院</p> <p>成人看護学：医学書院 「耳鼻咽喉」「眼」「歯・口腔」「皮膚」</p> <p>からだの地図帳：講談社</p>			

授業科目	生化学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	1. 化学の基礎的知識を身につける 2. 人体の構成部分である化学物質の組成、その分布および代謝について学び、生命現象を化学的側面から理解するために必要な知識を身に付ける		
	授業内容	備考	
	1. 生化学を学ぶための基礎知識 1) 生体をつくる元素 2) 浸透圧 3) 酸と塩基  2. 生体を構成する物質 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 4) 核酸 5) 水と無機質  3. 生体内の物質代謝 1) 代謝のあらまし 2) 酵素 3) ビタミンと補酵素 4) 糖質代謝 5) 脂質代謝 6) タンパク質代謝 7) 核酸代謝  4. 遺伝情報	<関連科目> 解剖生理学 栄養学 薬理学	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	生化学：医学書院 まるわかり！基礎化学：南山堂		

## 専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	栄養学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 2学期		
講師名			
科目目標	1. 人間の健康にとっての栄養の意義を理解し、健康的な食生活を送るために必要な栄養に関する基礎的知識を学ぶ 2. 病気の治療としての食事療法の意義、各種治療食の基本を理解する		
	授業内容	備考	
	1. 健康と栄養 1) 栄養とは 2) 健康における栄養の意義  2. 食物と栄養 1) 栄養素と栄養価 2) 各種栄養素の栄養学的意義 3) 日本人の食事摂取基準 4) エネルギー出納とその測定法  3. 健康的な食生活 1) 健康と食生活 2) 健康的な食生活の献立作成  4. 食事療法 1) 食事療法の意義  5. 疾患別治療食 1) 消化器疾患の治療食 2) 循環器疾患の治療食 3) 腎疾患の治療食 4) 栄養代謝障害（糖尿病・痛風・脂質異常症）の治療食 5) 貧血の治療食 6) 手術前後の食事  6. 経管栄養法  7. NSTチームと活動	<関連科目> 基礎看護学 生化学	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	臨床栄養学:メディカ出版 糖尿病食事療法のための食品交換表:日本糖尿病学会 臨床看護総論:医学書院		

授業科目	微生物学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解すると共に、感染症や伝染病の要因として重要な病原微生物の特徴を理解し、その予防と対処について基礎的知識を身につける		
	授業内容	備考	
	<p>1. 微生物学の基礎的知識</p> <p>1) 微生物の種類</p> <p>2) 感染のしくみと人体の感染防御機構</p> <p>2. 微生物の構造と主な性質</p> <p>1) 細菌の構造と主な性質</p> <p>2) 真菌の構造と主な性質</p> <p>3) 原虫の構造と主な性質</p> <p>4) ウイルスの構造と主な性質</p> <p>3. 主な病原微生物</p> <p>1) 病原細菌と細菌感染症</p> <p>2) 病原真菌と真菌感染症</p> <p>3) 病原原虫と原虫感染症</p> <p>4) 主なウイルスとウイルス感染症</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>基礎看護学</p> <p>生化学</p> <p>薬理学</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	微生物学:医学書院		

授業科目	臨床検査			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	15時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	病気の診断・治療法の方針の選択や、病状や予後の判断の資料となる臨床検査の基礎知識を身につける			
授業内容			備考	
1. 臨床検査の基本 1) チーム医療における検査技師の役割 2. 一般検査 1) 尿検査 2) 糞便検査 3) 髄液検査 4) 関節液・体腔液・消化液の検査 3. 血液検査 1) 末梢血液検査・末梢血液像 2) 血液凝固・止血検査 3) 骨髓検査 4. 臨床化学検査 1) 糖尿病関連検査 2) 高脂血症関連検査 3) 肝機能検査 4) 膵機能検査 5) 腎機能検査 6) 電解質検査 7) 尿酸検査 8) ビタミンの検査 5. 免疫血清検査、輸血検査 1) 免疫血清検査 2) 炎症・感染症関連の検査 3) 自己免疫関連の検査 4) 免疫細胞関連の検査 5) 腫瘍関連抗原の検査 6) 輸血検査 6. ホルモン検査 7. 微生物検査 8. 生理機能検査 1) 心電図 2) 呼吸機能検査 3) 超音波検査 4) 脳波検査			<関連科目>  微生物学 疾病治療総論 疾病治療論	
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	臨床検査:医学書院			

授業科目	薬理学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する 2. 疾病に対する治療薬の種類と作用機序、副作用について医療事故防止と併せて理解し、薬物療法を受ける患者の看護を展開するに必要な知識を身につける		
授業内容		備考	
1. 薬理学の基礎的知識 1) 薬物の分類 2) 薬物療法の目的 3) 薬物動態と薬効 4) 薬理作用と副作用（有害事象）  2. 薬物の取扱いと管理  3. チーム医療における薬剤師の役割  4. 主な治療薬等の種類と特徴 1) 抗感染症薬 2) 抗悪性腫瘍薬 3) 免疫治療薬 4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5) 末梢での神経活動に作用する薬物 6) 中枢神経系に作用する薬物 7) 心臓・血管系に作用する薬物 8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9) 物質代謝に作用する薬物 10) 救急の際に使用される薬物 11) 皮膚科用薬・眼科用薬 12) 漢方薬 13) 輸液製剤・輸血剤		<関連科目> 生化学 疾病治療総論 疾病治療論	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	薬理学:医学書院		

授業科目	疾病治療総論			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	1. 病因と病変の特徴および疾病の成り立ちと障害について、基礎的な内容を理解する 2. 臨床で行われる疾病の治療として共通する療法について理解する			
	授業内容			備考
	1. 病理学総論 1) 医学と病理学 2) 細胞・組織の障害 3) 物質代謝障害と疾患 4) 循環障害と疾患 5) 老化と死 6) 炎症 7) 感染症 8) 免疫異常と自己免疫疾患 9) 腫瘍  2. 放射線療法 1) 放射線検査の概要と見方 2) 放射線治療の目的 3) 放射線療法の適応と進め方 4) 放射線障害と防御  3. 内視鏡的治療 1) 内視鏡治療の目的 2) 消化管出血に対する止血術 3) 内視鏡的食道・胃静脈瘤治療 4) 消化管狭窄に対する治療 5) 経皮的内視鏡胃瘻増設術 6) 内視鏡による外科手術  4. 手術療法 1) 手術療法の目的と意義 2) 外科手術手技と処置の基本 3) 麻酔法 4) 手術侵襲・生体反応  5. 疼痛コントロール			<関連科目> 微生物学 薬理学
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	病理学：医学書院 治療法概説：メヂカルフレンド社 臨床外科看護総論：医学書院			

授業科目	疾病治療論 I		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次	2学期	
講師名			
科目目標	循環器系、呼吸器系、感染症、血液・造血器系の疾患と症状、障害及び病態・検査・治療について理解する		
授業内容			備考
<p>1. 循環器系の疾患</p> <p>1) 主な疾患と病態</p> <p>(1) 先天性心疾患 (2) 虚血性心疾患</p> <p>(3) 心筋症 (4) 心不全</p> <p>(5) 不整脈 (6) 心内膜炎と弁膜疾患</p> <p>(7) 脂質異常症 (8) 高血圧症</p> <p>(9) 動脈硬化症 (10) 閉塞性動脈硬化症</p> <p>(11) 大動脈瘤</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 心臓カテーテル検査 (2) ペースメーカー</p> <p>(3) 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗凝固薬</p> <p>(4) 経皮的冠動脈形成術 (5) 開心術</p> <p>2. 呼吸器系の疾患</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 気道・肺の炎症 (2) 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患</p> <p>(3) 肺循環障害(肺梗塞、肺塞栓症)</p> <p>(4) 肺の腫瘍 (5) 肺結核</p> <p>(6) 気胸</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 血液ガス (2) 気管支鏡・造影検査</p> <p>(3) 胸腔穿刺 (4) 抗アレルギー薬、気管支拡張薬</p> <p>(5) 肺切除術</p> <p>3. 血液・造血系の疾患</p> <p>1) 主な疾患と病態</p> <p>(1) 貧血 (2) 白血球減少症</p> <p>(3) 造血器の腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 骨髄穿刺 (2) 骨髄移植、造血幹細胞移植術</p> <p>4. 感染を原因とする疾患</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) MRSA感染症 (2) HIV感染症</p> <p>(3) インフルエンザ (4) 腸管出血性大腸菌感染症(O-157)</p> <p>(5) EBV(伝染性単核症) (6) ウィルス性胃腸炎(ノロウイルス)</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 抗ウイルス治療</p> <p>(2) 免疫機能検査</p> <p>(3) ワクチン接種(任意接種)(小児期定期接種以外)</p>			<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>疾病治療総論</p> <p>薬理学</p> <p>臨床検査</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	成人看護学:医学書院 「循環器」「呼吸器」「アレルギー・膠原病・感染症」「血液・造血器」		

授業科目	疾病治療論Ⅱ			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	消化器系、女性生殖器系、脳・神経系の疾患と症状、障害及び病態・検査・治療について理解する			
授業内容				備考
<p>1. 消化器系の疾患</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 消化管の炎症と潰瘍 (2) 消化管の腫瘍</p> <p>(3) イレウス (4) 排便の障害</p> <p>(5) 肝・胆・膵の炎症 (6) 肝硬変、肝不全</p> <p>(7) 肝・胆・膵の腫瘍 (8) 胆汁代謝・排泄障害</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 消化管内視鏡検査 (2) 造影検査</p> <p>(3) 腹水穿刺 (4) 肝生検</p> <p>(5) 胆嚢摘出術、胃切除術、膵臓切除術、腸切除術、肝切除術</p> <p>(6) 食道再建術 (7) 食道静脈硬化療法</p> <p>(8) ストーマ造設 (9) 胆管ドレナージ</p> <p>(10) 肝臓動脈塞栓術 (11) インターフェロン療法</p> <p>2. 女性生殖器系の疾患</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 女性生殖器の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫)</p> <p>(2) 乳腺の疾患(乳腺炎、乳腺症)</p> <p>(3) 腫瘍(乳がん、子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん)</p> <p>(4) 生殖機能障害(月経異常、更年期障害)</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 内診</p> <p>(2) ホルモン療法</p> <p>(3) 乳房の触診</p> <p>3. 脳・神経系の疾患</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 脳血管障害(脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病)</p> <p>(2) 頭蓋内圧亢進症</p> <p>(3) 変性疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症&lt;ALS&gt;)</p> <p>(4) 脱髄疾患(多発性硬化症)</p> <p>(5) 認知症(アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症)</p> <p>(6) 感染症(脳炎、髄膜炎)</p> <p>(7) 頭部外傷</p> <p>(8) 機能性疾患(てんかん) (9) 脳腫瘍</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 神経学的診察 (2) 脳血管造影</p> <p>(3) 髄液検査 (4) 誘発電位法</p> <p>(5) 脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術</p> <p>(6) 薬物療法 (7) 放射線療法</p>				<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>疾病治療総論</p> <p>薬理学</p> <p>臨床検査</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	成人看護学：医学書院 「消化器」「女性生殖器」「脳・神経系」			

授業科目	疾病治療論Ⅲ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次	2学期	
講師名			
科目目標	内分泌・代謝系、免疫系、生体防御機能、腎・泌尿器系の疾患と症状、障害及び病態・検査・治療について学ぶ		
授業内容		備考	
<p>1. 内分泌及び代謝系の疾患</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 下垂体疾患 (クッシング症候群)</p> <p>(2) 甲状腺の疾患 (甲状腺機能亢進症・低下症、甲状腺癌)</p> <p>(3) 副甲状腺 (上皮小体) の疾患</p> <p>(4) 副腎の疾患 (クッシング症候群、褐色細胞腫)</p> <p>(5) 多発性内分泌腫瘍</p> <p>(6) 栄養バランスの不均衡による疾患 (脂質異常症、高尿酸血症)</p> <p>(7) 糖尿病</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 甲状腺機能検査</p> <p>(2) ホルモン補充療法・抗ホルモン療法</p> <p>(3) インシュリン療法</p> <p>2. 自己免疫疾患・膠原病</p> <p>1) 主な疾患と病態</p> <p>(1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス</p> <p>(3) シェーグレン症候群 (4) ベーチェット病</p> <p>(5) 多発性筋炎</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 骨髓穿刺 (2) ステロイド療法</p> <p>3. 生体防御機能障害</p> <p>1) 皮膚・付属器および粘膜の疾患と病態</p> <p>4. 腎・泌尿器及び男性生殖器の疾患</p> <p>1) 主な疾患と病態</p> <p>(1) 腎・尿路の炎症 (2) 腎・尿路の腫瘍</p> <p>(3) 腎・尿路の通過障害 (4) 腎不全</p> <p>2) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 腎生検 (2) 尿流動態検査、膀胱鏡検査</p> <p>(3) 内診・性機能検査 (4) 膀胱留置カテーテル</p> <p>(5) 透析療法 (6) 薬物療法、ホルモン療法</p> <p>(7) 腎臓移植術 (8) 尿路変更術</p> <p>(9) 前立腺切除術、前立腺摘出術</p>		<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>疾病治療総論</p> <p>薬理学</p> <p>臨床検査</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>成人看護学：医学書院</p> <p>「内分泌・代謝」「アレルギー・膠原病・感染症」「皮膚」</p> <p>「腎・泌尿器」</p>		



授業科目	疾病治療論V		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次	1学期	
講師名			
科目目標	小児に生じやすい形態異常と疾患及び検査・治療について理解する		
	授業内容	備考	
	1. 遺伝子・染色体の異常 1) 先天性代謝異常症      2) ダウン症候群      3) 血友病 2. 消化器疾患 1) 肥厚性幽門狭窄症      2) ヒルシュスプルング病 3) 鎖肛      4) 腸重積      5) 胆道閉鎖症 6) 乳児下痢症（ロタウィルス感染症を中心に） 7) 先天性横隔膜ヘルニア 3. 呼吸器疾患 1) 肺炎・気管支炎      2) クループ症候群 3) RSウィルス・マイコプラズマ感染症 4. 循環器疾患 1) 心房・心室中隔欠損症      2) 動脈管開存症 3) ファロー四徴症      4) 乳幼児突然死症候群 5. アレルギー疾患 1) 気管支喘息      2) アトピー性皮膚炎 6. 血液疾患・悪性腫瘍 1) 血管性紫斑病 血小板減少性紫斑病 2) 白血病（主に急性リンパ性白血病） 3) 神経芽細胞腫      4) ウィスムス腫瘍 7. 神経・筋疾患 1) 髄膜炎 脳炎      2) 水頭症      3) 熱性けいれん 4) 水頭症 二分脊椎      5) 脳性麻痺 8. 腎・泌尿器疾患 1) ネフローゼ症候群 9. 骨・関節疾患 1) 先天性股関節脱臼 10. 感染症 1) 麻疹 風疹      2) 水痘      3) 流行性耳下腺炎 4) 伝染性膿痂疹      5) ポリオ      6) ジフテリア 7) 百日咳      8) 突発性発疹      9) 手足口病 11. 免疫疾患 1) 川崎病      2) リウマチ熱	<関連科目> 解剖生理学 疾病治療論 薬理学 臨床検査	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	小児の疾患と看護：MCメディカ出版		

授業科目	疾病治療論Ⅵ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	2年次	1学期	
講師名			
科目目標	精神障害の病理と疾患、治療および検査について理解する		
授業内容			備考
<p>1. 主な精神疾患</p> <p>1) 統合失調症</p> <p>2) 気分障害</p> <p>3) 神経症性障害、ストレス関連障害および心身表現性障害 (パニック障害、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、適応障害)</p> <p>4) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (摂食障害、不眠症、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群)</p> <p>5) 精神作用物質関連障害 (アルコール依存症、覚醒剤、大麻精神病)</p> <p>6) 器質性精神障害 (症状精神病)</p> <p>7) 精神遅滞</p> <p>8) 発達障害</p> <p>9) 性同一性障害</p> <p>2. 主な検査、治療</p> <p>1) 脳波検査・脳の画像検査</p> <p>2) 心理検査</p> <p>3) 脳脊髄液検査</p> <p>4) 薬物療法</p> <p>(1) 抗精神病薬</p> <p>(2) 抗うつ薬</p> <p>(3) 気分安定薬</p> <p>(4) 抗不安薬</p> <p>(5) 睡眠薬</p> <p>(6) 抗てんかん薬</p> <p>5) 電気けいれん療法</p> <p>6) 精神療法</p> <p>7) リハビリテーション療法</p>			<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>疾病治療論</p> <p>薬理学</p> <p>臨床検査</p> <p>・認知症に関しては、 疾病治療論Ⅱで学ぶ</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	精神看護の基礎 医学書院		

## 専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	医療概論		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次	1学期	
講師名			
科目目標	医療の変遷を学び、医の倫理に基づいた医療の役割および、保健・医療における看護の役割について理解する		
	授業内容	備考	
	<p>1. 医学・医療の歴史</p> <p>1) 医学・医療の歴史を学ぶ意味</p> <p>2) 医学はどのように発展してきたか</p> <p>3) 医療の黒歴史</p> <p>4) 脳死と臓器移植</p> <p>5) 安楽死と医療</p> <p>6) 日本の医療を支えた医療訴訟</p> <p>7) 医療研究開発への患者・市民参画</p> <p>2. 医療の実践</p> <p>1) 診断・治療のプロセス</p> <p>2) 医療の実践と倫理的課題</p> <p>3. わが国の社会保障制度</p> <p>1) 医療保険制度</p> <p>2) 介護保険制度</p> <p>3) 地域包括ケア</p> <p>4) 地域共生社会</p> <p>4. 医療を担う専門職と連携</p> <p>1) 医療を担う専門職</p> <p>2) 多職種連携</p> <p>3) 医療機関の連携</p> <p>4) プライマリケア</p> <p>5) 在宅医療</p> <p>6) 医療者に求められるプロフェッショナリズム</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>看護学概論</p> <p>保健医療論</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	医療学総論 メヂカルフレンド社		

授業科目	保健医療論		
教育方法	講義		
開講学期	2年次	1学期	単位・時間数
			1単位 30時間
講師名			
科目目標	医療施策の現状と課題を踏まえ、国立病院機構が担う医療における看護師の役割と実際について理解する		
授業内容			備考
<p>1. 我が国の医療提供体制</p> <p>1) 医療法改正</p> <p>2) 国立病院機構の役割（医療・臨床研究・教育研修）</p> <p>3) 地域医療</p> <p>（1）重点施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5疾病・5事業</li> <li>・ 静岡医療センターの特色</li> <li>救急医療・病院前との連携</li> <li>災害医療、DMATの活動、がん看護</li> </ul> <p>（2）セーフティネット医療</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① セーフティネット医療とは</li> <li>② 結核患者の看護</li> <li>③ 重症心身障害者の看護</li> <li>④ 神経難病患者の看護、てんかん患者の看護</li> <li>⑤ 筋ジストロフィー患者の看護</li> <li>⑥ エイズ患者の看護</li> <li>⑦ 触法精神障害者の看護（医療観察法）</li> </ol> <p>4) 臨床研究</p> <p>5) 教育研修</p> <p>（1）看護学校教育</p> <p>（2）継続教育 看護職員能力開発プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 専門分野研修</li> <li>② 看護管理者ステップアップ研修</li> <li>③ 教員養成研修</li> </ol> <p>2. ハンセン病療養所の現状と課題</p>			<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>医療概論</p> <p>疾病治療総論</p> <p>公衆衛生学</p> <p>地域・在宅看護論</p> <p>・てんかんは小児期の成長発達を含めて学ぶ</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>医療学総論：メヂカルフレンド社</p> <p>臨床外科総論：医学書院 災害看護：メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学「呼吸器」「血液・造血器」「脳・神経」：医学書院</p> <p>小児の疾患と看護：MCメヂカ出版 精神看護の基礎 展開：医学書院</p> <p>国民衛生の動向</p>		

授業科目	公衆衛生学		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	地域社会で普通に暮らしている人々、あるいは各種機能集団の人々の健康を保持増進するための理論と方法を学ぶ		
	授業内容	備考	
	<p>1. 公衆衛生と公衆衛生学</p> <p>1) 健康の概念</p> <p>2) 公衆衛生の歴史</p> <p>3) 公衆衛生の方法 プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション</p> <p>2. 人間の健康と環境</p> <p>1) 環境の捉え方（自然環境と生活環境）</p> <p>2) 環境問題</p> <p>3) 住居環境の生活衛生</p> <p>4) 食品保健と栄養</p> <p>5) 薬物</p> <p>6) 環境行政</p> <p>3. 人口統計 人口構造</p> <p>4. 保健統計</p> <p>5. 疫学</p> <p>6. 予防と健康保持増進 健康診断と受療状況 ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ</p> <p>7. 保健活動</p> <p>1) 地域保健</p> <p>2) 母子保健</p> <p>3) 成人保健</p> <p>4) 高齢者保健福祉（地域包括ケアシステム）</p> <p>5) 精神保健</p> <p>6) 難病・障害者（児）保健福祉</p> <p>7) 歯科保健</p> <p>8) 学校保健</p> <p>9) 産業保健</p> <p>10) 災害保健・国際保健</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>社会福祉</p> <p>成人看護学</p> <p>老年看護学</p> <p>小児看護学</p> <p>母性看護学</p> <p>精神看護学</p> <p>地域・在宅看護論</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	公衆衛生学：メヂカルフレンド社 国民衛生の動向		

授業科目	社会福祉			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	2年次	1学期		
講師名				
科目目標	社会福祉の理論や制度について基礎知識を身につけ、医療と福祉の関連を認識し、対象の福祉に対するニーズに対応し、制度やサービスを活用できる能力を養う			
	授業内容			備考
	1. 社会福祉の概要 1) 社会福祉の組織                      2) 福祉の専門職と職種  2. 社会保障制度 1) 所得保障                                2) 医療保障  3. 高齢者福祉 1) 老人福祉                                2) ゴールドプラン 3) 老人保健法                            4) 介護保険制度 5) 老人福祉計画                        6) 高齢者虐待防止法  4. 児童福祉 1) 児童福祉法                            2) 児童憲章 3) 子育て支援（新エンゼルプラン）  5. 障害者福祉 1) 障害者の定義                        2) ノーマライゼーション 3) 障害者プラン                        4) 障害者総合支援法 5) 成年後見人制度等                    6) 障害者虐待の防止  6. 公的扶助 1) 生活保護法の基本原理              2) 生活保護の運営実施と体制 3) 生活保護の現状  7. 一人親家庭の福祉 1) 母子福祉対策                        2) 父子家庭対策 3) 児童扶養手当制度  8. 労働者災害補償保険制度・雇用保険制度  9. 社会福祉と医療・看護の連携			<関連科目> 疾病治療総論 公衆衛生学 地域・在宅看護論 医療概論
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	社会保障・社会福祉：医学書院			

授業科目	関係法規		
教育方法 開講学期	講義 3年次	2学期	単位・時間数 1単位 30時間
講師名			
科目目標	看護職や看護実践に関連する法令の知識を学び、職業人として法に対する規範的行動を身につける		
授業内容		備考	
1. 法の概念 2. 看護法 1) 保健師助産師看護師法 (1) 保健師助産師看護師法とは (2) 看護師国家試験受験資格 (3) 看護師国家試験手続きの実際 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3. 医事法 1) 医師法 2) 医療法 3) 医療関係資格法 (1) 診療放射線技師法           (2) 臨床検査技師等に関する法律 (3) 理学療法士及び作業療法士法 4) 医療を支える法 (1) 独立行政法人国立病院機構法 (2) 臓器の移植に関する法律 (3) 死体解剖保存法           (4) 死産の届けに関する規程 (5) 医学及び歯学の教育のための献体に関する法律 4. 薬物に関する法律 1) 薬剤師法 2) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律 3) 麻薬及び向精神薬取締法   4) 毒物及び劇物取締法 5) 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律 6) その他の医薬品に関する法律 5. 社会保険法 1) 健康保険法                   2) 国民健康保険法 3) 高齢者の医療に関する法   4) 介護保険法 5) 国民年金法 6. 労働法と社会基盤整備 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 4) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 5) 個人情報の保護に関する法律 7. 環境法 1) 環境基本法 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 3) 公害健康被害の保障等に関する法律		<関連科目> 倫理学 社会福祉 公衆衛生学 基礎看護学 看護の統合と実践	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	看護をめぐる法と制度：MCメディカ出版 国民衛生の動向		

# 專門分野

## 専門分野（基礎看護学）

授業科目	看護学概論		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	看護の概念と、看護の対象である人間とその健康及び看護の果たす役割を理解し、看護学の基盤をつくることのできる		
回数	授業内容	備考	
	<p>1. 看護とは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の本質</li> <li>2) 看護の役割と機能</li> <li>3) 看護の継続性と連携</li> </ol> <p>2. 看護の対象の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味</li> <li>2) 生涯発達し続ける存在としての人間理解</li> <li>3) 人間の「暮らし」の理解</li> </ol> <p>3. 国民の健康状態と生活</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康の捉え方</li> <li>2) 国民の健康状態</li> <li>3) 国民のライフサイクル</li> </ol> <p>4. 看護の提供者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職業としての看護</li> <li>2) 看護職の資格・養成制度・就業状況</li> <li>3) 看護職者の継続教育とキャリア開発</li> <li>4) 看護職の養成制度の課題</li> </ol> <p>5. 看護における倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現代社会と倫理</li> <li>2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理</li> <li>3) 看護実践における倫理課題への取り組み</li> </ol> <p>6. 看護の提供のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) サービスとしての看護</li> <li>2) 看護サービス提供の場</li> <li>3) 看護をめぐる制度と政策</li> <li>4) 看護サービス管理</li> <li>5) 医療安全と医療の質の保証</li> </ol> <p>7. 広がる看護の活動領域</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際化と看護</li> <li>2) 災害時における看護</li> </ol>		
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	看護学概論：医学書院 フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書き」：日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」：日本看護協会出版会		

授業科目	共通看護技術 I		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
担当教員	看護師 病院での看護経験		
科目目標	看護専門職として看護活動に必要な基本技術の概念と構造を理解し、あらゆる看護活動に共通する技術を身につける		
回数	授業内容	授業方法	備考
1	1. 看護技術とは	講義	<関連科目> 看護学概論 微生物学 人間関係論 基礎看護学演習 *安全と身体拘束について考える内容を含む
1	1) 看護技術の特徴		
1	2) 看護技術の質		
1	3) 看護技術における倫理		
1	4) 看護技術におけるリフレクション		
1	5) 看護技術における安全の意義		
1	6) 看護技術における安楽の意義		
15	2. 安楽を整える技術	演習	
15	1) 安楽を整える技術の基礎知識		
15	2) 温電法・冷電法の技術演習		
2~3	3. 人間関係形成のための技術	講義	
2~3	1) 言語的コミュニケーション		
2~3	2) 非言語的コミュニケーション		
4~5	3) 面接技法		
6	4) コミュニケーションの技術演習	演習	
7	4. 感染予防の技術	講義	
7	1) 感染予防の基礎知識		
8	2) 標準予防策		
9	3) 感染経路別予防策	演習	
9	(1) 標準予防策・防護用具の技術演習		
10	4) 洗浄・消毒・滅菌	講義	
11	5) 無菌操作	演習	
12	(1) 鑷子、滅菌包装の取り扱いの技術演習		
13	6) 感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習	
13	7) 感染症発生時の対応		
14	8) 針刺し事故防止		
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	基礎看護技術 I・II:医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術:医学書院 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント: ヌーヴェルヒロカワ		

授業科目	共通看護技術Ⅱ		
教育方法	講義・演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 1学期		
担当教員	看護師 病院での看護経験		
科目目標	対象の健康状態を評価するための基礎技術を身につける		
回数	授業内容	授業方法	備考
1	1. ヘルスアセスメント	講義	<関連科目> 生活科学 成人看護実践論Ⅱ 成人看護実践論Ⅲ 成人看護学演習Ⅱ 基礎看護学演習 *技術演習はリフレクションを含む
1	1) ヘルスアセスメントとは		
1	2) 健康歴とセルフケア能力のアセスメント		
1	(1) 問診・インタビュー		
2	3) フィジカルアセスメントとは		
2	4) フィジカルアセスメントに必要な技術		
2	(1) 視診 (2) 触診 (3) 聴診 (4) 打診		
3	5) 身体計測		
3	(1) 身長 (2) 体重 (3) 胸囲 (4) 腹囲		
3	6) 体温維持のフィジカルアセスメント		
4~13	(1) 体温 (2) 体温測定 of 技術演習		
4~13	7) 呼吸器系のフィジカルアセスメント		
4~13	(1) 胸郭の観察 (2) 呼吸音の聴取		
4~13	(3) 呼吸音の聴取、SpO <sub>2</sub> の測定 of 技術演習		
4~13	8) 循環器系のフィジカルアセスメント		
4~13	(1) 心臓の触診(心尖拍動) (2) 心音の聴取		
4~13	(3) 心尖拍動の触診、心尖部での心音の聴診 of 技術演習		
4~13	(4) 脈拍 (5) 血圧 (6) 脈拍・血圧測定 of 技術演習		
4~13	9) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント		
14~15	(1) 乳房および腋窩(リンパ節)の視診・触診		
14~15	(2) 胸囲の測定 of 技術演習		
14~15	10) 腹部のフィジカルアセスメント		
14~15	(1) 腹部の視診 (2) 腸蠕動音の聴取		
14~15	(3) 腹囲の測定・腸蠕動音の聴診 of 技術演習		
14~15	11) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント		
14~15	(1) 日常生活動作(ADL) (2) 関節可動域(ROM)		
14~15	(3) 徒手筋力テスト(MMT)		
14~15	12) 神経系のフィジカルアセスメント		
14~15	(1) 感覚機能 (2) 反射 (3) 意識		
14~15	(4) 意識・反射の観察 of 技術演習		
14~15			
		講義	ROM測定とMMTは疾病治療論Ⅳで技術演習を行う
		講義・演習	
評価の方法	技術試験・筆記試験		
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 フィジカルアセスメントがみえる：医療情報科学研究所 からだの地図帳：講談社 解剖生理学 医学書院		

授業科目	共通看護技術Ⅲ		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 2学期		
講師名	看護師 病院での看護経験		
科目目標	各看護学の基盤となる看護過程の構造を理解し、看護実践に必要な思考を身につける		
回数	授業内容	授業方法	備考
1～5	1. 看護過程の基になる考え方と理論	講義および演習	<関連科目> 看護学概論 論理的思考 成人看護学演習Ⅱ 基礎看護学演習
1～5	1) 看護過程とは		
1～5	2) 看護過程と問題解決過程		
1～5	3) 看護過程とクリティカルシンキング		
1～5	4) 看護過程と看護理論の関係		
1～5	(ヘンダーソン、オレム、ロイ)		
1～5	5) 看護診断 (ゴードン)		
1～5	6) 臨床推論・臨床判断と看護過程		
6～13	2. 看護過程展開の技術		
6～13	1) 情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合		
6～13	2) 看護問題の明確化と優先順位決定		
6～13	3) 看護目標の設定と計画		
6～13	4) 実施・評価		
6～13	5) 看護記録		
6～13	(1) 記録の意義		
6～13	(2) 種類と法的根拠		
6～13	(3) 記録の方法と注意点		
6～13	(4) 記録の管理		
6～13	6) 報告の必要性と方法		
6～13	7) 医療計画とクリニカルパス		
14	3. 学習支援		
	1) 学習に関わる諸理論		
	2) 看護における学習支援とは		
	3) 健康に生きることを支える学習支援		
	4) 健康状態の変化に伴う学習支援		
	5) 看護の中に含まれる学習支援		
15	4. まとめ		
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践：ヌーヴェルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト：ヌーヴェルヒロカワ 看護過程に沿った対症看護：学研		

授業科目	日常生活援助技術 I			
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間	
開講学期	1年次 1学期			
担当教員	看護師 病院での看護経験			
科目目標	環境を整える援助および活動・休息を整える援助技術を身につける			
回数	授業内容	授業方法	備考	
1～3	1. 生活環境を整える技術	講義	<関連科目> 生活科学 解剖生理学Ⅳ 共通看護技術Ⅰ～Ⅲ 基礎看護学演習	
1～3	1) 生活環境調整の意義			
1～3	2) 療養者と環境			
1～3	3) 療養環境の構成因子			
1～3	(1) 温度・湿度 (2) 照度 (3) 騒音 (4) 換気			
1～3	(5) 採光 (6) 臭気 (7) プライバシーの保護			
1～3	4) 病床に必要な要件			
1～3	5) 生活環境調整の援助方法			
4～5	(1) 環境調整 (2) ベッドメイキング			
4～5	(3) 環境整備・ベッドメイキング			
4～5	臥床患者のリネン交換			
13～15	6) 個々の患者に適した援助方法の選択 (1) 対象の状態と観察 (2) 援助の目的と方法			
6～9	2. 活動・運動			講義
6～9	1) 活動・運動の意義			
6～9	2) 活動・運動に影響する要因			
6～9	3) 活動・運動のアセスメント			
6～9	4) 活動・運動の援助方法			
6～9	(1) 姿勢と体位の保持、ポジショニング			
6～9	(2) 体位変換・床上移動			
6～9	(3) 車椅子への移乗と移送			
6～9	(4) ストレッチャーへの移乗と移送			
6～9	(5) 歩行介助			
10～12	(6) 体位変換・床上移動・車椅子及び ストレッチャーの移乗と移送の技術演習	演習	*病棟の環境見学  ※対象のもてる力を活用して行う	
6～9	3. 休息・睡眠の援助技術	講義		
6～9	1) 休息・睡眠の意義			
6～9	2) 休息・睡眠に影響する要因			
6～9	3) 休息・睡眠のアセスメント			
6～9	4) 療養生活におけるレクリエーション			
6～9	5) 睡眠を促す援助方法			
評価の方法	技術試験 (ベッドメイキング) ・筆記試験			
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術：医学書院			



授業科目	日常生活援助技術Ⅲ			
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 15時間	
開講学期	1年次 1学期			
担当教員	看護師 病院での看護経験			
科目目標	食事・排泄を整える援助技術を身につける			
回数	授業内容	授業方法	備考	
1	1. 食事の援助	講義	<関連科目> 生活科学 解剖生理学Ⅱ・Ⅲ 共通看護技術Ⅰ～Ⅲ 基礎看護学演習	
1	1) 食事・栄養の意義			
1	2) 食事・栄養摂取に影響する要因			
2	3) 食事・栄養状態のアセスメント			
3	4) 食事摂取の援助方法	演習	*技術演習はリフレクションを含む	
4	臥床患者の食事介助の技術演習			
5	2. 排泄の援助			
5	1) 排泄の意義			
5	2) 排泄に影響する要因			
5	3) 排泄のアセスメント			
6	4) 自然な排便・排尿を促す援助方法			
6	(1) トイレにおける排泄介助			
6	(2) 床上での尿器・便器・おむつの援助方法			
6	(3) 排便を促す援助			
7~8	(4) 便器・尿器の当て方、おむつ交換の技術演習			演習
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術：医学書院			

授業科目	基礎看護学演習		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 2学期		
担当教員	看護師 病院での看護経験		
科目目標	基礎看護学における思考過程を身につける		
回数	授業内容	授業方法	備考
	<p>1. 健康障害をもつ対象を全人的に捉える</p> <p>1) 生活を営む人のアセスメント 「食事」「排泄」「活動と休息」 「更衣・整容」 「呼吸・体温調節」「環境」 「心理・社会的側面」</p> <p>2) 生活を営む人の生活を整える 生活者としての対象 家族の看護</p> <p>2. 看護の思考過程</p> <p>1) 臨床判断能力とは</p> <p>2) 看護とリフレクション ※援助計画</p> <p>3) ケアリング</p> <p>4) 看護倫理</p> <p>3. 看護の専門性と多職種連携</p> <p>1) チームの連携とコミュニケーション</p> <p>2) 多職種との協働</p>	講義 演習	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>看護学概論 共通看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p> <p>※授業内容2の2)は 基礎看護学実習Ⅰの前に行う</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート、事例患者への看護実践等		
テキスト	<p>看護学概論：医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 看護が見える フィジカルアセスメント：メディックメディア ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：ヌーベルヒロカワ 看護過程に沿った対象看護：学研</p>		

授業科目	診療の補助技術 I					
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位	30時間		
開講学期	1年次	2学期				
担当教員	看護師 病院での看護経験					
科目目標	検査・処置を受ける患者の看護技術を身につける					
回数	授業内容	授業方法	備考			
1	1. 診察、検査・処置時の看護師の役割	講義	<関連科目> 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅳ 微生物学 臨床検査 疾病治療論Ⅳ 成人看護実践論Ⅱ 共通看護技術Ⅰ～Ⅲ			
1	1) 診察時の援助の実際					
1	2) 検査・処置時の援助の実際					
2	2. 検査時の援助方法					
2	1) 検体検査の種類と採取方法					
2	(1) 尿、便、喀痰					
3～4	(2) 静脈血採血					
6	(3) 血糖測定					
5	(4) 静脈血採血・血糖測定の技術演習				演習	*技術演習はリフレクションを含む
10	3. 処置時の援助方法				講義	体位ドレナージの演習は、疾病治療論Ⅳで行う
10	1) 呼吸を整える技術					
10	(1) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法					
11	(2) 排痰法					
11	①排痰法の基礎知識					
11	②援助の実際					
	・体位ドレナージ・咳嗽介助					
	・口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引					
	・ネブライザー					
14	(3) 酸素吸入の適応と方法					
12～13	(4) 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の技術演習	演習				
15	(5) 酸素吸入の技術演習					
7	2) 皮膚・創傷の管理	講義				
7	(1) 創傷の種類・治癒過程と観察					
7	(2) 創傷の管理・ドレーン類挿入部					
8	(3) ドレッシング・包帯法					
9	(4) 創傷管理・包帯法の技術演習	演習				
評価の方法	筆記試験およびレポート等					
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術：医学書院 からだの地図帳：講談社					

授業科目	診療の補助技術Ⅱ		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
担当教員	看護師 病院での看護経験		
科目目標	与薬を受ける患者の看護技術を身につける		
回数	授業内容	授業方法	備考
1	1. 薬物療法の理解	講義	<関連科目> 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅳ 薬理学 共通看護技術Ⅰ～Ⅲ *技術演習はリフレクションを含む
1	1) 与薬の意義・目的		
1	2) 与薬の看護師の役割と責任		
1	(1) 薬理作用・副作用と観察		
1	(2) 薬剤の正しい取扱い		
1	(3) 誤薬・誤認防止		
1	(4) 薬物の暴露の危険性と予防策		
1	(5) 起こりやすい合併症と生活への影響		
2	2. 経口およびその他の方法による与薬の看護		
2	1) 経口与薬		
2	2) 口腔内与薬		
2	3) 直腸内与薬		
3	4) 経皮的与薬		
3	5) 点眼・点鼻		
3	6) 吸入		
4	7) 直腸内与薬の技術演習	演習	
	3. 注射法による与薬の看護	講義	
5～6	1) 注射の基礎知識		
7	2) 皮下注射		
7	3) 皮内注射		
10	4) 筋肉内注射		
12	5) 静脈内注射		
12	6) 点滴静脈内注射、三方活栓の取り扱い		
15	7) 輸血		
8. 9. 11. 13. 14	8) 皮下注射・筋肉内注射・点滴静脈内注射(三方活栓の取り扱い)の技術演習	演習	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術：医学書院 からだの地図帳：講談社		

授業科目	臨床看護総論		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	1年次 2学期		
講師名			
科目目標	1. それぞれの健康段階にある患者および家族を理解し、健康段階に合わせた看護の考え方を学ぶ 2. 症状・治療に合わせた看護の基本を学ぶ		
回数	授業内容	備考	
	1. おもな看護展開の場と看護の機能 2. 看護の役割と機能を支えるしくみ 3. 健康段階からみた看護の臨床判断 1) 急激な身体侵襲により急性期及び回復過程にある患者の看護 (1) 急性期の看護の概念 (2) 急性期の患者のニーズ (3) 急性期にある患者の治療の特徴と看護 ①救命救急、手術時の医療の責任と役割 ②安静療法を受ける患者の看護 2) 障害への適応と社会復帰への看護 (1) 障害を持つ患者の看護の概念 (2) 障害を持つ患者のニーズ、アセスメント (3) 障害を持つ患者の治療の特徴と看護 ①障害受容と日常生活動作の制限、食事療法を受ける患者の看護 3) 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 (1) 慢性期の看護の概念 (2) 慢性期の患者のニーズ ①疾病・病状の自己管理 ②疾病・病状の健康障害の受容 (3) 慢性期にある患者の治療の特徴と看護 ①セルフケア行動継続と薬物療法を受ける患者の看護 4) 終末期の看護 (1) 終末期の看護の概念 (2) 終末期の患者のニーズ (3) 終末期にある患者の治療の特徴と看護 ①死の受容過程に応じて緩和ケアを受ける患者の看護 ②死後の処置とグリーフケア 4. 主要症状のある患者の看護 1) 痛み 2) 循環障害 3) 呼吸障害 4) 排泄障害 5) 意識障害 5. 治療・処置を受けている患者の看護 1) 輸液療法 2) 食事療法 3) 化学療法 4) 放射線療法 5) 手術療法	<関連科目> 疾病治療総論 看護学概論	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	臨床看護総論：医学書院 成人看護学総論：医学書院 臨床外科看護総論：医学書院 看護過程に沿った対症看護：学研		

## 専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護概論 I		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次 1学期		
講師名			
科目目標	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する		
	授業内容	備考	
	<p>1. 在宅看護が必要とされている背景と根拠 社会情勢 地域共生社会 地域包括ケアシステム</p> <p>2. 暮らすということ 1) 子どもを生き育てる 2) 学ぶ・働く・病を治す 3) 老いとともに生きる 4) 最期を迎える 5) 在宅療養者の自立・自律支援 (価値観の尊重と意思決定支援、QOLの維持・向上、セルフケア、社会参加への援助)</p> <p>3. 支えあって生きるとは 1) 家族・仲間・近隣の人々 2) 学校や職場・支え合い 3) 自助・互助・共助・公助 4) 地域共生社会・ボランティア活動</p> <p>4. 地域の生活環境が健康に与える影響 1) 文化的環境 2) 社会的環境 3) 自然環境 4) 公衆衛生の基本</p>	<p>&lt;関連科目&gt; 看護学概論 社会学 人間関係論 異文化関係論 臨床看護総論 公衆衛生学 社会福祉</p> <p>認知症サポーター養成講座受講</p> <p>清水町探索</p> <p>*健康状態、発達段階については看護学概論にて学び、具体的な健康状態については臨床看護総論で学ぶ</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 家族看護学：メディカ出版 講師資料		

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	地域・在宅看護の対象と健康と暮らしを支える法制度とシステム、看護を理解する			
授業内容				備考
<p>1. 地域・在宅看護の概念・目的</p> <p>1) 地域・在宅看護の背景</p> <p>2) 地域・在宅看護の基盤</p> <p>3) 地域・在宅看護を展開するための基本理念</p> <p>4) 地域・在宅看護における倫理</p> <p>2. 地域・在宅看護論の対象と家族の支援</p> <p>1) 地域に暮らすすべての人々(胎児期～老年まで)</p> <p>2) 健康状態(在宅における病状・病態の経過の予測と予防、健康の良い状態～終末期まで)</p> <p>3) 発達段階</p> <p>4) 家族(疾病がある者と家族、障害がある者と家族)</p> <p>5) 家族アセスメントにおける主な理論</p> <p>(1) 家族発達理論</p> <p>(2) 家族システム理論</p> <p>(3) 家族アセスメントモデル</p> <p>3. 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策</p> <p>1) 地域・在宅看護の背景、国民の価値観</p> <p>2) 地域医療構想・地域包括ケアシステム</p> <p>3) 医療保険、介護保険制度と施策</p> <p>4) 訪問看護に関する法と制度</p> <p>5) 権利保障に関する法と制度</p> <p>6) 各保健、障害者等に関する法と施策</p>				<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>看護学概論</p> <p>老年看護学概論</p> <p>公衆衛生学</p> <p>社会福祉</p> <p>保健医療論</p> <p>関係法規</p> <p>看護の統合と実践</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	<p>地域療養を支えるケア：MCメディカ出版</p> <p>在宅療養を支える技術：MCメディカ出版</p> <p>国民衛生の動向</p>			

授業科目	地域・在宅看護実践論Ⅰ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	地域・在宅看護の対象と健康と暮らしを支える看護を理解し、看護を展開する場の特徴と看護の基盤となる方法を理解する		
	授業内容	備考	
	<p>1. 健康と暮らしを支える対象の安全と危機管理</p> <p>1) 在宅における危機管理</p> <p>(1) 在宅の場で起こり得る事故の予防と対応</p> <p>(2) 在宅医療におけるリスクの特徴</p> <p>2) 日常生活における安全管理</p> <p>(1) 家屋環境の調整 (2) 転倒転落の防止</p> <p>(3) 誤嚥窒息の防止 (4) 熱傷凍傷の防止</p> <p>(5) 熱中症の防止 (6) 感染症の防止</p> <p>(7) 閉じこもり予防</p> <p>3) 災害時における対象と家族の危機管理</p> <p>(1) 対象と家族への防災対策</p> <p>(2) 地域団体との連携 (3) 医療機関との連携</p> <p>(4) 福祉機関との連携 (5) 行政との連携</p> <p>(6) 独居高齢者の防災、多職種連携、協働</p> <p>4) 地域・在宅看護における権利の保障</p> <p>(1) 権利擁護 (2) 虐待防止</p> <p>(3) 個人情報保護 (4) 提供者側の権利の保護</p> <p>2. 看護が提供される多様な場に応じた看護の特徴と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院（外来、入院）、診療所</li> <li>・居宅（自宅、施設）</li> <li>・療養通所介護事業所</li> <li>・訪問看護事業所</li> <li>・看護小規模多機能型居宅介護</li> <li>・通所サービス</li> <li>・地域包括支援センター</li> <li>・特別支援学級</li> <li>・発達障害デイサービス</li> <li>・保健センター（母子健康包括支援センター含む）</li> </ul> <p>3. 訪問看護の概要</p> <p>1) 訪問看護制度の理解 2) 訪問看護制度の法的枠組み</p> <p>3) 訪問看護サービスの仕組みと提供</p> <p>4. 地域・在宅看護の展開</p> <p>1) 訪問看護のマナー 2) 看護展開の特徴</p> <p>3) 看護技術の特徴 4) 健康教育</p> <p>5) フィジカルアセスメント 6) 看取りの看護</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>基礎看護学 看護学概論 臨床看護総論 成人看護学概論 社会福祉 公衆衛生学</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>地域療養を支えるケア：MCメディカ出版</p> <p>在宅療養を支える技術：MCメディカ出版</p>		

授業科目	地域・在宅看護論演習Ⅰ		
教育方法	講義・演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	地域・在宅看護の基盤となる看護技術や方法を学ぶ		
	授業内容	備考	
	<p>1. 地域で生活する人と家族のアセスメント</p> <p>1) ヘルスアセスメント</p> <p>2) 病態・症状のアセスメント</p> <p>3) 家族のアセスメント</p> <p>4) 生活のアセスメント</p> <p>5) 事例に必要な多職種連携・協働</p> <p>2. 訪問時のマナーの実際</p> <p>3. 在宅生活を支える看護技術の実際</p> <p>1) 基本的な技術</p> <p>(1) コミュニケーション</p> <p>(2) フィジカルアセスメント</p> <p>(3) 環境整備</p> <p>(4) 生活リハビリテーション</p> <p>(5) 感染予防</p> <p>(6) ターミナルケア</p> <p>(7) 療養者・家族への学習支援</p> <p>2) 日常生活を支える看護技術</p> <p>(1) 食生活</p> <p>(2) 呼吸</p> <p>(3) 排泄</p> <p>(4) 睡眠</p> <p>(5) 清潔と更衣</p> <p>(6) 肢位の保持と姿勢</p> <p>4. 地域貢献活動の実際</p> <p>地域が求める互助の役割 ボランティア活動</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>公衆衛生学 社会福祉 老年看護学 成人看護学概論</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>浣腸・摘便 導尿</p> <p>清水町保健センター よりゲートキーパー 養成講座を受ける</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>地域療養を支えるケア：MCメディカ出版</p> <p>在宅療養を支える技術：MCメディカ出版</p>		

授業科目	地域・在宅看護実践論Ⅱ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 2学期		
講師名			
科目目標	地域で生活する人々とその家族の看護について理解する		
	授業内容	備考	
	<p>1. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護</p> <p>1) 誤嚥性肺炎を生じた超高齢者：急性期</p> <p>2) 中途障害による脊髄損傷療養者：慢性期</p> <p>3) インスリン自己注射を開始する糖尿病療養者：慢性期</p> <p>4) 脳梗塞後遺症で高次脳機能障害のある療養者：回復期</p> <p>5) 在宅で終末期を迎える療養者：終末期</p> <p>6) 老々介護であるパーキンソン病療養者</p> <p>7) 壮年期のALS療養者</p> <p>8) 在宅療養を開始する重症心身障害児</p> <p>9) 生活の自立を目指す精神障害者</p> <p>10) 日中独居の認知症療養者</p> <p>2. 難病がある在宅療養者への看護 (病期や機能障害に応じた看護を含む)</p> <p>1) 重症筋無力症</p> <p>2) ギランバレー症候群</p> <p>3) ALS</p> <p>3. 在宅における医療管理を必要とする人への看護</p> <p>1) 薬物療法</p> <p>2) 酸素療法</p> <p>3) 人工呼吸療法(非侵襲的換気法)</p> <p>4) 膀胱留置カテーテル</p> <p>5) 胃瘻・経管栄養法</p> <p>6) 中心静脈栄養法</p> <p>7) 褥瘡管理</p> <p>8) 在宅CAPD管理</p> <p>4. 継続看護の意義と方法</p> <p>1) 医療依存度の高い対象の退院支援と調整</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>成人看護学 社会福祉 小児看護学 老年看護学 精神看護学</p> <p>*上記の事例と併せて講義を行う</p> <p>・在宅人工呼吸療法、侵襲的陽圧換気療法については成人実践論Ⅰにて学ぶ</p> <p>・ストマ管理は成人看護学演習Ⅱにて学ぶ</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>地域療養を支えるケア：MCメディカ出版</p> <p>在宅療養を支える技術：MCメディカ出版</p> <p>成人看護学 脳神経 医学書院</p>		

授業科目	地域・在宅看護論演習Ⅱ		
教育方法	講義・演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 2学期		
講師名			
科目目標	地域で生活する人々とその家族の看護について理解し実践方法を知る		
	授業内容	備考	
	<p>1. 在宅療養者の状態に応じた援助の実際</p> <p>1) 在宅看護における看護過程の展開 事例を通してケース・ケアマネジメントの実施</p> <p>(1) ALSで在宅人工呼吸器を装着した対象と家族</p> <p>①意思決定支援 ②在宅経管栄養法の看護 ③在宅人工呼吸器装着の看護：治療の場から移行の支援 (医療機関との入退院時の連携、施設との入退所時の連携) ④療養者とその家族への指導 ⑤社会資源の活用 (地域包括ケアシステムにおける多職種連携として行政、地域包括、居宅支援事業所、介護サービス事業所、住民との連携) ⑥在宅寝たきりの対象に対する日常生活援助 ⑦看取りの看護 ⑧グリーフケア</p> <p>(2) 多重課題の家族の看護過程の展開 家族介護力不足、経済的困窮などの社会問題化している事例に対する包括的なアプローチの実際 (疾病を持つ認知症高齢者と障害を持つ子との世帯に対するアプローチの検討)</p>	<p>&lt;関連科目&gt; 基礎看護学 社会福祉 成人看護学 老年看護学</p> <p>&lt;技術演習項目&gt; 経鼻胃チューブの挿入 経管栄養法による流動食の注入</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>地域療養を支えるケア：MCメディカ出版 在宅療養を支える技術：MCメディカ出版</p>		

## 専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学概論			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	1年次	2学期		
講師名				
科目目標	1. 成人期にある人々の特徴と生活及び健康問題の特徴について理解できる 2. 成人期における看護の目的について理解できる 3. 成人看護に有用な概念や理論について理解できる 4. 成人期にある人々の健康保持・増進と疾病予防のための看護について理解できる			
授業内容			備考	
1. 成人の特徴と生活 1) 成人の生涯発達の特徴 (1) 青年期・壮年期・向老期の身体の特徴 (2) 青年期・壮年期・向老期の心理社会的な特徴 2) 成人と生活 (1) 家族形態と機能      (2) 社会状況の変化と成人の生活 3) 成人保健・医療・福祉の動向  2. 成人に特有な健康問題の特徴 1) 健康バランスに影響を及ぼす要因 2) 生活行動がもたらす健康問題 (1) 生活習慣      (2) 職業      (3) ストレス  3. 成人への看護の基本 1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助      2) 家族支援  4. 成人看護に有用な概念・理論 1) アンドラゴジー 2) ヘルスプロモーション 3) 危機モデル（フィンクのモデル） 4) ストレスコーピング 5) 病みの軌跡 6) セルフケア理論 7) エンパワメント  5. 健康保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチ 1) 生活習慣病に関連する健康障害の予防 (1) 生活習慣病の発生要因と対応 (2) 生活習慣病の発症予防とセルフケアへの支援 2) 職業性疾患に関連する健康障害の予防 (1) 職業性疾患の予防と対応 ①化学的要因    ②物理的因子    ③作業条件 (2) 職業性疾患を考慮した看護師の役割 3) ストレスに関連する健康障害の予防 (1) ストレス関連疾患の予防と対応 (2) ストレス関連疾患を考慮した看護方法			<関連科目> 心理学 看護学概論 公衆衛生学 社会福祉	
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	成人看護学総論：医学書院      国民衛生の動向			



授業科目	成人看護実践論Ⅱ			
教育方法	講義		単位・時間数	1単位
開講学期	2年次	1学期		30時間
講師名				
科目目標	1. 栄養代謝機能障害のある成人への看護について理解できる 2. 脳・神経機能障害のある成人への看護について理解できる 3. 身体防御機能障害のある成人への看護について理解できる			
	授業内容			備考
	1. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 肝機能障害 ①肝性脳症   ②浮腫・腹水   ③倦怠感   ④黄疸   ⑤出血傾向 (3) 代謝機能障害 ①肥満   ②るい瘦   ③痛風発作 (3) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 肝生検 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 急性肝炎・慢性肝炎 (肝底療法・インターフェロン療法の看護も含む) (2) 肝硬変 (代償期・非代償期) (3) 食道静脈瘤 (食道静脈瘤硬化療法の看護も含む) (4) 肝癌 (肝動脈塞栓術、肝切除術の看護も含む) (5) 高尿酸血症   (6) 脂質異常症  2. 脳・神経機能障害のある患者看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 運動・感覚器障害   (2) 言語機能障害   (3) 高次脳機能障害 (4) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 脳波検査   (2) 髄液検査   (3) 脳血管造影 (4) 開頭術 (脳室ドレナージの内容も含む)   (5) 穿頭術 (6) 血管バイパス術   (7) 脳室ドレナージ (8) 脳室-腹腔短絡 (シャント) 術   (9) 低体温療法 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 脳血管障害 ①クモ膜下出血   ②一過性脳虚血・脳梗塞 (2) 脳腫瘍   (3) 頭部外傷   (4) 脊髄損傷  3. 身体防御機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 免疫機能障害   (2) 骨髄機能障害   (3) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 骨髄穿刺   (2) 免疫抑制薬   (3) ステロイド療法 (4) 粘膜皮膚生検 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) HIV (抗HIV療法の看護も含む) (2) 自己免疫性疾患 ①全身性エリテマトーデス   ②全身性強皮症   ③多発性筋炎 ④シェーグレン症候群   ⑤ベーチェット病 (3) 血液悪性疾患：悪性リンパ腫   白血病			<関連科目> 解剖生理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	成人看護学：「消化器」「内分泌・代謝」「脳・神経」「血液・造血器」「アレルギー 膠原病 感染症」医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア			

授業科目	成人看護実践論Ⅲ			
教育方法	講義	単位・時間	1単位	30時間
開講学期	2年次	1学期	数	
講師名				
科目目標	1. 内分泌障害のある成人への看護について理解できる 2. 内部環境調節機能障害のある成人への看護について理解できる 3. 排泄機能障害のある成人への看護について理解できる 4. 性・生殖機能障害のある成人への看護について理解できる			
授業内容				備考
1. 内分泌機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 甲状腺機能障害 (2) 副腎機能障害 (3) 下垂体機能障害 (4) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) ホルモンの血中濃度測定 (2) ホルモン負荷試験 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 甲状腺疾患 (甲状腺機能亢進症) (2) 甲状腺機能低下症 (甲状腺ホルモン療法含む) (2) 腫瘍 (甲状腺がん・甲状腺切除術を含む)、下垂体腫瘍) 2. 内部環境調節機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 体温調節障害 (2) 血糖調節障害 (3) 体液量調節障害 (4) 電解質調節機能障害 (5) 酸塩基平衡調節障害 (6) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 糖負荷試験 (OGTT) (2) 静脈性尿路造影 (3) 腎機能検査 ①クリアランス試験②フィッシュバーグ濃縮試験③PSP排泄試験 (4) 腎生検 (5) 腎移植 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) I型糖尿病・II型糖尿病 (食事療法、運動療法、インスリン療法、経口薬療法の内容含む) (慢性期の患者の看護、自己管理の学習支援を含む) (2) 慢性腎不全 (腎移植・透析療法・食事療法の内容含む)・急性腎不全 (3) 慢性腎臓病 (4) ネフローゼ症候群 (食事療法の内容含む) 3. 排泄機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 蓄尿・排尿障害 (2) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 尿流動態検査 (2) 膀胱鏡検査 (3) 静脈性尿路造影 (4) 勃起障害治療 (5) 性交障害治療(男性) 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 膀胱がん (膀胱切除術、尿路変向術の術前～術後のセルフケア習得までの内容含む) (2) 前立腺がん (前立腺切除術、ホルモン療法の内容含む) (3) 腎・尿路結石 (4) 前立腺肥大 4. 性・生殖機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 性・生殖機能障害 (2) ホルモン欠落症状 (3) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 性感染症治療 (2) 診療介助における看護 (外診および内診時) (3) 性交障害治療(女性) 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 乳癌 (乳癌内分泌療法、乳房切除術の内容含む) (2) 女性生殖器切除術				<関連科目> 解剖生理学 薬理学 臨床検査 疾病治療論
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	成人看護学：「内分泌・代謝」「腎・泌尿器」「女性生殖器」 医学書院 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア			

授業科目	成人看護学演習Ⅰ		
教育方法 開講学期	講義・演習 2年次 1学期	単位・時間数	1単位 30時間
担当教員	看護師 病院での成人期の患者を対象とした看護経験		
科目目標	慢性期・終末期における看護技術、思考過程を身につける		
回数	授業内容	授業方法	備考
1～6  7～15	<p>1. 慢性期における患者の看護過程の展開</p> <p>1) セルフケア行動形成・維持への援助</p> <p>2) 社会的支援の獲得への援助</p> <p>3) 自己効力、セルフケア理論、病みの軌跡を活用した学習支援</p> <p>4) 家族の支援</p> <p>2. 終末期における患者の看護過程の展開</p> <p>1) 全人的苦痛のアセスメント</p> <p>2) 死の受容過程と援助</p> <p>(1) 意思決定支援</p> <p>3) 心身における安楽の看護</p> <p>ペインコントロール</p> <p>4) グリーフケア</p> <p>5) 家族の支援</p>	講義・演習	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学Ⅲ</p> <p>薬理学</p> <p>臨床検査</p> <p>疾病治療論Ⅲ</p> <p>臨床看護総論</p> <p>成人看護実践論Ⅰ</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>1. 慢性期における学習支援</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>成人看護学総論：医学書院</p> <p>成人看護学「消化器」「内分泌・代謝」：医学書院</p> <p>臨床看護総論：医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院</p> <p>フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア</p>		

授業科目	成人看護学演習Ⅱ			
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	2年次	2学期		
講師名	看護師 病院での看護経験			
科目目標	1. 救急看護・クリティカルケアの看護について理解できる 2. 急性期・回復期における看護技術、思考過程を身につける			
	授業内容			備考
	<p>1. 救急看護・クリティカルケア</p> <p>1) 救急度と重症度のアセスメント</p> <p>(1) 意識レベル、神経学的所見</p> <p>(2) フィジカルアセスメント</p> <p>2) 救急看護・クリティカルケアの基本</p> <p>(1) 心肺停止状態への処置 (2) ショックへの処置</p> <p>(3) 急性症状の応急処置 (4) 外傷・熱傷・中毒の応急処置</p> <p>(5) 環境要因による傷害の応急処置 (6) 感染症への処置</p> <p>2. 急性期・回復期における患者の状態に応じた援助の実際</p> <p>1) 大腸がんにより、人工肛門造設術を受ける患者の看護過程の展開</p> <p>(1) 手術前の患者の看護</p> <p>①手術前の患者のアセスメント</p> <p>②手術に向けた準備</p> <p>(術前オリエンテーション、術後の機能回復への援助、術前処置)</p> <p>(2) 手術中の患者の看護 (入室前・手術中・手術終了時)</p> <p>(3) 手術後の回復を促進するための看護</p> <p>①手術後の患者のアセスメント</p> <p>・手術侵襲と生体反応</p> <p>・手術後の患者の全身状態の観察</p> <p>②早期回復に向けた援助と術後合併症の予防</p> <p>(4) 地域・在宅への移行に向けた看護</p> <p>・就労に向けた援助</p> <p>・ストーマ管理</p> <p>(5) 手術前～手術後における家族への看護</p> <p>(6) 手術前～手術後における多職種間との連携・協働</p>			<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>薬理学</p> <p>臨床検査</p> <p>疾病治療論</p> <p>共通看護技術Ⅲ</p> <p>臨床看護総論</p> <p>&lt;技術演習&gt;</p> <p>1. 手術前・手術後の看護</p> <p>1) 手術に向けた準備 (術前オリエンテーション、術後の機能回復への援助)</p> <p>2) 手術後の患者の観察 (フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメント)</p> <p>3) 心電図モニター・12誘導心電図</p> <p>4) ドレーンの管理</p> <p>5) ストーマ管理</p> <p>6) BLS</p>
評価の方法	筆記およびレポート等			
テキスト	<p>臨床看護総論・臨床外科看護総論：医学書院</p> <p>成人看護学「循環器」「消化器」「呼吸器」：医学書院</p> <p>基礎看護技術Ⅰ：医学書院</p> <p>パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 照林社</p> <p>フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア</p>			

## 専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学概論				
教育方法	講義		単位・時間数	1単位	15時間
開講学期	1年次	2学期			
講師名					
科目目標	1. 高齢者の特徴と健康及び健康問題を理解できる 2. 老年看護の概念と機能・役割を理解できる				
授業内容					備考
1. 老年期の理解 1) ライフサイクル      2) 人口学的指標      3) 健康指標 4) 老年期の発達と成熟      5) 高齢者の多様性  2. 高齢者の健康の特徴 1) 加齢に伴う変化      2) 高齢者にとっての健康  3. 高齢者を取り巻く社会 1) 高齢者の生活と家族      2) 高齢社会における保健医療福祉の動向  4. 老年看護の特徴 1) ノーマライゼーション      2) 自立支援とエンパワーメント 3) 廃用症候群の予防      4) エンド・オブ・ライフケア 5) 家族との協働      6) 在宅・施設につなげる看護  5. 老年看護の倫理 1) 高齢者差別      2) 高齢者虐待 3) 安全確保と身体拘束      4) 高齢者の権利擁護  6. 老年看護に有用な概念と理論 1) 老化理論      2) 離脱理論  7. 介護保険と老年看護 1) 高齢者の保健医療福祉の関連における看護 2) 在宅高齢者の看護  8. 高齢者を介護する家族への看護 1) 介護家族の生活と健康      2) 介護家族への看護					<関連科目> 成人看護学概論 地域・在宅看護論 社会福祉 看護学概論
評価の方法	筆記試験およびレポート等				
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院 国民衛生の動向				

授業科目	老年看護実践論Ⅰ			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	2年次	1学期		
講師名	病院での老年期の患者を対象とした看護経験			
科目目標	加齢による変化が生活に及ぼす影響と、高齢者の生活の特徴を踏まえ、健康の維持・増進に向けた看護を理解する			
回数	授業内容	授業方法	備考	
1	1. 高齢者のヘルスアセスメント	講義 演習	<関連科目> 成人看護学概論 疾病治療論 地域・在宅看護論 日常生活援助技術  <演習項目> 1. 高齢者疑似体験	
2	1) 身体的健康のアセスメント			
2	2) 生活の自立状態のアセスメント			
2	(1) 基本的日常生活活動 (BADL)			
2	(2) 手段的日常生活活動 (IADL)			
2	(3) 高齢者総合機能評価 (CGA)			
2	3) 心理・社会的健康のアセスメント			
2	4) 環境・生活史のアセスメント			
3	2. 高齢者の生活機能を整える看護			
3	1) コミュニケーションのアセスメントと看護			
3				
4	2) 歩行・移動動作のアセスメントと看護			
5	3) 食生活のアセスメントと看護			
6	4) 排泄のアセスメントと看護			
7	5) 清潔・衣生活のアセスメントと看護			
8	6) 生活リズムのアセスメントと看護			
9	7) セクシュアリティのアセスメントと看護			
10	8) 社会参加のアセスメントと看護			
11	3. 高齢者に特有な症候と看護			
12	1) せん妄			
13	2) 脱水症			
13	3) 睡眠障害			
13	4) 排尿障害			
13	5) 便秘			
14	6) 摂食・嚥下障害			
14	7) 低栄養			
15	8) 廃用症候群			
15	9) 骨粗鬆症			
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院			

授業科目	老年看護実践論Ⅱ			
教育方法 開講学期	講義 2年次	1学期	単位・時間数	1単位 30時間
講師名				
科目目標	1. 老年期に起こりやすい運動機能障害患者の看護を理解する 2. 老年期に起こりやすい感覚機能障害患者の看護を理解する 3. 老年期に起こりやすい身体防御機能障害患者の看護を理解する 4. 老年期に起こりやすい認知症患者の看護を理解する			
	授業内容			備考
	1. 運動機能障害患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 姿勢機能障害     (2) 移動機能障害     (3) 作業機能障害 (4) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 脊椎造影 椎間板造影     (2) 筋生検 (3) ギプス固定     (4) 牽引法     (5) 人工関節置換術 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 関節リウマチ     (2) 椎間板ヘルニア     (3) 大腿骨頸部骨折  2. 感覚器機能障害患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1) 視覚障害     (2) 聴覚障害 (3) 嗅覚障害     (4) 味覚障害 (5) 生命・生活への影響 2) 主な検査と治療、それらに対する看護 (1) 眼底検査     (2) オーディオメーター検査 (3) 鼻腔内視鏡検査     (4) ろ紙ディスク法 (5) 眼底光凝固療法     (6) 網膜剥離治療 (7) 人工眼内レンズ挿入術     (8) 鼓室形成術 (9) 鼻腔内手術     (10) 舌癌手術 (切除術・放射線療法) (11) ステロイド療法 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 中途視覚障害者     (2) 突発性難聴 (3) メニエール病     (4) 副鼻腔炎 (5) 末梢神経障害  3. 身体防御機能障害患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 (生命・生活への影響含む) (1) 生検 (粘膜・皮膚)     (2) スキンテスト (3) 減感作療法     (4) ステロイド療法 3) 病期や機能障害に応じた看護 (1) 疥癬     (2) 熱傷 (3) 白癬     (4) 黒色腫     (5) 帯状疱疹  4. 認知症のある患者の看護 1) 症状を抱える患者の看護 (1) コミュニケーション方法     (2) 行動・心理症状と生活への影響 2) 検査・治療を受ける患者の看護 (1) 療法的アプローチ     (2) 家族への支援とサポートシステム			<関連科目> 解剖生理学 疾病治療論 成人看護学 疾病治療論Ⅳ  ROM・MMTは 疾病治療論Ⅳ で履修
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院 成人看護学「運動器」「眼」「耳鼻咽喉」「皮膚」「脳・神経」：医学書院			

授業科目	老年看護学演習			
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位	30時間
開講学期	2年次	1学期		
担当教員	看護師 病院での老年期の患者を対象とした看護経験			
科目目標	老年看護の実践に共有する看護観察や看護技術、思考過程について学び、生活機能の維持・悪化予防のための基礎的能力を身につける			
回数	授業内容	授業方法	備考	
1	1. 老年期にある患者の看護過程の展開と患者の状態に応じた援助の実際	講義演習	<関連科目> 日常生活援助技術 成人看護学 地域・在宅看護論  <技術演習項目> 1. 義歯の取り扱いと口腔ケア 2. 高齢者のリハビリ、自動・他動運動 3. レクリエーションの企画 4. 身近な高齢者のライフヒストリーを聴く (高齢者への聞き書き)	
2	1) 大腿骨頸部骨折の患者の看護過程の展開			
3～6	(1) 回復期にある患者			
7～11	(2) 手術後骨盤底筋群の低下により、尿失禁のある患者の援助			
12～15	(3) 廃用症候群予防のための援助 (4) 退院後を見据えた援助 (5) 家族の支援 2. 高齢者のレクリエーションの意義			
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院 成人看護学「運動器」：医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院			

## 専門分野（小児看護学）

授業科目	小児看護学概論		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	小児看護の概念と機能・役割が理解できる		
	授業内容	備考	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児看護の対象</li> <li>2) 小児看護の目的</li> <li>3) 子どもの最善の利益を目指した看護</li> </ol> </li> <li>2. 小児看護の歴史と意義               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児看護の歴史</li> <li>2) 小児看護の課題</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの権利と看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの権利</li> <li>2) 現代社会と子どもの権利</li> <li>3) 小児医療と子どもの権利</li> <li>4) 小児看護と倫理的配慮</li> </ol> </li> <li>4. 子どもと家族               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもにとっての家族とは</li> <li>2) 子どもを持つ家族の特徴</li> </ol> </li> <li>5. 小児看護と法律・施策               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもを取り巻く社会環境</li> <li>2) 母子保健施策</li> <li>3) 小児に関する法律</li> </ol> </li> <li>6. 小児看護で用いられる理論               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) セルフケア理論</li> <li>2) エリクソン自我発達理論</li> <li>3) ピアジェの認知発達理論</li> <li>4) 親子関係論</li> <li>5) 家族理論</li> </ol> </li> </ol>	<関連科目> 心理学 社会学 教育学 公衆衛生学 社会福祉 母性看護学 精神看護学	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	小児の発達と看護:MCメディカ出版 国民衛生の動向		

授業科目	小児看護実践論Ⅰ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	1. 小児の成長・発達が理解できる 2. 小児期の成長・発達及び健康な生活を促すための看護を理解できる		
授業内容			備考
1. 成長・発達の原則 1) 成長・発達の一般原則 2) 成長・発達に影響する要因 2. 乳児期の成長・発達と看護 1) 乳児期 2) 形成的成長・発達の特徴 3) 機能的発達の特徴 4) 心理・社会的発達 5) 乳児によくみられる健康問題 6) 乳児のセルフケアの発達と看護 7) 乳児のいる家族への看護 3. 幼児期の成長・発達と看護 1) 幼児期 2) 形成的成長・発達の特徴 3) 機能的発達の特徴 4) 心理・社会的発達 5) 幼児期によくみられる健康問題 6) 幼児期のセルフケアの発達と看護 7) 幼児期の子どもがいる家族への看護 4. 学童期の成長・発達と看護 1) 学童期 2) 身体的特徴 3) 機能的発達 4) 学童によくみられる健康問題 5) 学童期の発達と看護 6) 学童期の子どもがいる家族への看護 5. 思春期の成長・発達と看護 1) 思春期 2) 身体的成長 3) 機能的発達 4) 思春期によくみられる健康課題 5) 思春期のセルフケアの発達と看護 6) 思春期の子どもがいる家族への看護 6. 発育の評価 1) 形成的成長の観察と評価 2) 心理社会的発達の評価			<関連科目> 心理学 社会学 教育学 社会福祉 母性看護学 精神看護学 公衆衛生学
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	小児の発達と看護:MCメディカ出版		

授業科目	小児看護実践論Ⅱ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 2学期		
講師名			
科目目標	小児の健康段階と様々な状況に応じた看護を理解できる		
授業内容			備考
<p>1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護</p> <p>1) 病院環境におけるプレパレーション</p> <p>2) 病気や入院が子どもと家族に与える影響</p> <p>3) 病気になった子どもと家族の看護</p> <p>2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護</p> <p>1) 外来における子どもと家族</p> <p>2) 在宅における子どもと家族（医療的ケア児）</p> <p>3) 活動制限が必要な子どもと家族（ネフローゼ症候群）</p> <p>4) 感染対策上隔離が必要な子どもと家族（麻疹）</p> <p>5) 先天的な健康問題のある子どもと家族（ダウン症候群・血友病）</p> <p>6) 周手術期における子どもと家族（鎖肛・ファロー四徴症）</p> <p>7) 心身障害を持つ子どもと家族（脳性麻痺・発達障害）</p> <p>8) 急性期にある子どもと家族（気管支喘息・川崎病）</p> <p>9) 慢性期にある子どもと家族（Ⅰ型糖尿病・アトピー性皮膚炎）</p> <p>10) 痛みのある子どもと家族（腸重積）</p> <p>11) 終末期にある子どもと家族（急性リンパ性白血病）</p> <p>12) 救急処置が必要な子どもと家族（誤飲・溺水・熱傷）</p> <p>13) 特別な状況にある子どもと家族（虐待・災害）</p>			<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>保健医療論</p> <p>社会福祉</p> <p>公衆衛生学</p> <p>疾病治療論</p>
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>小児の疾患と看護：MCメディカ出版</p> <p>小児の発達と看護：MCメディカ出版</p> <p>小児看護技術：MCメディカ出版</p>		

授業科目	小児看護学演習		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 2学期		
講師名			
科目目標	小児看護の実践における看護観察や看護技術、思考過程を身につける		
	授業内容	備考	
	<p>1. 子どものフィジカルアセスメント</p> <p>2. 検査・処置を受ける子どもと家族への看護</p> <p>1) 発達に応じたプレパレーション</p> <p>2) 安全・安楽への看護</p> <p>3) バイタルサイン測定</p> <p>4) 身体計測</p> <p>5) 採血</p> <p>6) 採尿</p> <p>7) 骨髄穿刺</p> <p>8) 腰椎穿刺</p> <p>9) 経口与薬</p> <p>10) 注射・輸液療法</p> <p>11) 酸素療法（酸素マスク、経鼻カニューラ）</p> <p>3. 小児の看護過程の展開</p> <p>1) 気管支喘息の急性期にある子ども</p> <p>(1) 喘息発作時の援助</p> <p>(2) 治療・処置に対する理解が得られにくい子どもへの援助</p> <p>(3) 家族の支援</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学 成人看護学 母性看護学 地域・在宅看護論</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>1. バイタルサイン測定</p> <p>2. 身体計測</p> <p>3. 静脈内点滴注射の介助・固定</p> <p>1～3は、看護過程の展開を踏まえながら、小児のコミュニケーション・プレパレーションを学ぶ</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>小児の疾患と看護：MCメディカ出版</p> <p>小児の発達と看護：MCメディカ出版</p> <p>小児看護技術：MCメディカ出版</p>		

## 専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学概論		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 15時間
開講学期	2年次	1学期	
講師名			
科目目標	1. リプロダクティブ・ヘルスの視点から女性のライフサイクル各期における看護の役割と意義について理解する 2. 周産期医療システムと母子保健施策について理解する		
授業内容	備考		
1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性・父性・親性とは 2) 母子関係と家族発達（家族関係の調整・愛着形成含む） 3) セクシュアリティ（人間の性） 4) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 5) 母性看護と倫理  2. 母子の健康生活と法律・制度 1) 母性看護の変遷 2) 母子保健統計の動向 3) 周産期医療のシステムと母子保健施策  3. 女性のライフステージ各期における看護（健康教育含む） 1) 思春期女性の健康課題と看護 (1) 第二性徴 (2) 性意識・性行動の発達 (3) 月経異常 (4) 性感染症 (STD) 2) 成熟期女性の健康課題と看護 (1) 家族計画 (2) 不妊症、不育症 (3) 女性生殖器の疾患 (4) 性暴力、DV 3) 更年期女性の健康課題と看護 (1) ホルモンの変化と閉経 (2) 更年期症状 4) 老年期女性の健康課題と看護 (1) 骨盤臓器脱 (2) 老人性膣炎、外陰炎	<関連科目> 疾病治療総論 社会学 成人看護学 小児看護学 解剖生理学		
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	母性看護学概論：医学書院 国民衛生の動向		

授業科目	母性看護実践論Ⅰ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	妊娠・分娩・産褥期にある対象および早期新生児期にある対象の看護を実践するために必要な知識を身につける		
	授業内容	備考	
	<p>1. 妊娠期における看護</p> <p>1) 妊娠期の身体的特性</p> <p>2) 妊娠期の心理・社会的特性</p> <p>3) 妊婦と胎児のアセスメント</p> <p>4) 妊婦と家族の看護</p> <p>2. 分娩期における看護</p> <p>1) 分娩の要素</p> <p>2) 分娩の経過</p> <p>3) 産婦・胎児, 家族のアセスメント</p> <p>4) 産婦と家族の看護</p> <p>5) 分娩期の看護の実際</p> <p>3. 産褥期における看護</p> <p>1) 産褥経過</p> <p>2) 褥婦のアセスメント</p> <p>3) 褥婦と家族の看護</p> <p>4. 早期新生児期における看護</p> <p>1) 早期新生児の生理</p> <p>2) 早期新生児のアセスメント</p> <p>3) 早期新生児の看護</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>解剖生理学</p> <p>疾病治療総論</p> <p>小児看護学</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>1. 妊婦体験</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>母性看護学概論：医学書院</p> <p>母性看護学各論：医学書院</p> <p>母性看護過程：医学書院</p>		



授業科目	母性看護学演習		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 2学期		
講師名			
科目目標	母性看護の対象と看護援助の特徴をふまえた観察や看護技術・思考過程を身につける		
	授業内容	備考	
	<p>1. 母性看護に必要な看護技術</p> <p>1) 妊産婦の看護</p> <p>(1) 子宮底長・腹囲測定</p> <p>(2) レオポルド触診法</p> <p>(3) 胎児心音聴取</p> <p>2) 褥婦の看護</p> <p>(1) 子宮底の触診</p> <p>(2) 子宮底の輪状マッサージ</p> <p>(3) 乳頭・乳房の観察・触診</p> <p>(4) 乳頭・乳房マッサージ</p> <p>(5) 児の抱き方</p> <p>(6) 哺乳・調乳・排気の仕方</p> <p>3) 早期新生児の看護</p> <p>(1) 衣服の着脱・おむつ交換</p> <p>(2) 沐浴</p> <p>(3) 臍処置</p> <p>(4) 環境調整</p> <p>2. 母性看護における看護過程(ウェルネス志向)</p> <p>1) 正常な妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児期にある対象の事例展開</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>小児看護学</p> <p>成人看護学</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>1. 子宮底長・腹囲測定</p> <p>2. レオポルド触診法</p> <p>3. 胎児心音聴取</p> <p>4. 子宮復古の観察・輪状マッ サージ</p> <p>5. 沐浴(抱き方衣服の着脱・オムツ交換・臍処置含む)</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	<p>母性看護学概論：医学書院</p> <p>母性看護学各論：医学書院</p> <p>母性看護過程：医学書院</p>		

## 専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学概論			
教育方法	講義	単位・時間数	1単位	15時間
開講学期	1年次	1学期		
講師名				
科目目標	1. こころの構造と働きおよびその発達過程を理解し、健康なこころ作りと維持に向けた生活の在り方について理解する。 2. 精神看護の目的、対象、看護の役割と機能について理解する。			
	授業内容			備考
	1. 精神の健康 1) 精神の健康 2) 心の健康に対する普及啓発 3) 精神の機能と構造 4) 発達段階と精神の健康  2. 精神看護の対象理解 1) 生物学的側面、心理学的側面、社会的側面 (1) 免疫機能とサーカディアンリズム (2) 自律神経失調 2) 対人関係の看護論 3) 精神障害のとらえ方 (1) 疾患モデルと障害モデル (2) 国際生活機能分類 (ICF) の考え方  3. 精神領域における保健・医療・福祉の動向 1) 精神保健医療福祉の歴史と看護 2) 精神保健福祉の法制度 3) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築			<関連科目> 心理学 人間関係論 社会学 教育学 社会福祉 公衆衛生学
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院			

授業科目	精神看護実践論Ⅰ		
教育方法	講義	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 1学期		
講師名			
科目目標	こころの健康を保持・増進するための援助について理解する		
	授業内容	備考	
	<p>1. 対人関係と自己活用</p> <p>1) 臨床における自己理解、他者理解</p> <p>2) リフレクションとしてのプロセスレコード</p> <p>3) ストレス対処</p> <p>4) リラクゼーション</p> <p>2. 集団における心のはたらき</p> <p>1) 集団力動</p> <p>2) 家庭、地域、学校、職場における関係性</p> <p>3. 精神障害者の看護の特徴</p> <p>1) 安全な治療環境の提供と人権擁護</p> <p>2) 患者の権利擁護</p> <p>(1) 処遇 (2) 隔離、身体拘束 (3) 精神医療審査会</p> <p>3) リスクマネジメント</p> <p>4) リハビリテーション</p> <p>(1) 社会復帰・社会参加の基本 (2) 保健医療に関する資源と調整</p> <p>(3) 福祉に関する資源と調整 (4) 人的資源の活用と調整</p> <p>5) 生きる力と強さに着目した援助</p> <p>(1) ストレングス (2) リカバリ</p> <p>(3) エンパワメント (4) レジリエンス</p> <p>4. 災害時における地域精神保健医療活動</p> <p>1) 災害時の精神保健医療活動</p> <p>2) 災害時の精神保健初期対応</p> <p>3) 災害時の精神障がい者への治療継続への援助</p> <p>5. リエゾン精神看護</p> <p>1) 心身相関と健康 2) 身体疾患を持つ人の精神の健康</p> <p>3) 精神疾患を持つ人の身体の健康</p> <p>4) 患者と家族の精神の健康</p> <p>5) 看護職員の精神の健康</p> <p>6) 患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>心理学</p> <p>人間関係論</p> <p>教育学</p> <p>成人看護学概論</p> <p>老年看護学概論</p> <p>小児看護学概論</p> <p>母性看護学概論</p> <p>地域・在宅看護概論Ⅱ</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>1. プロセスレコードによるリフレクション</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院		



授業科目	精神看護学演習		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	1単位 30時間
開講学期	2年次 2学期		
講師名			
科目目標	精神看護の実践に共通する看護観察や看護技術、思考過程を身につける		
	授業内容	備考	
	<p>1. 対人関係と自己活用</p> <p>1) 治療的コミュニケーション</p> <p>2) ロールプレイングによる効果的な介入方法の体験</p> <p>2. 患者体験</p> <p>1) 幻覚体験</p> <p>3. 精神看護における対象の理解</p> <p>1) 面接技法（支持的面接）</p> <p>2) 観察技法</p> <p>3) セルフケア能力</p> <p>4) 対象を取り巻く支援者</p> <p>4. セルフケア看護アプローチを用いた精神疾患患者の看護展開</p> <p>1) 統合失調症患者の看護過程の展開（急性・慢性期）</p> <p>（1）幻覚・妄想のある患者</p> <p>（2）退院支援</p> <p>（3）支持的面接の実際</p>	<p>&lt;関連科目&gt;</p> <p>心理学</p> <p>人間関係論</p> <p>社会学</p> <p>教育学</p> <p>社会福祉</p> <p>公衆衛生学</p> <p>成人看護学</p> <p>老年看護学</p> <p>地域・在宅看護論</p> <p>&lt;技術演習項目&gt;</p> <p>1. 支持的面接</p> <p>2. 患者体験</p>	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院		

授業科目	看護の統合と実践 I		
教育方法 開講学期	講義 3年次 1学期	単位・時間数	1単位 30時間
講師名			
科目目標	1. 医療現場における危険因子を理解し、質の高い医療・看護を提供するためには医療事故防止が必要であることを理解できる 2. 演習を通して、危険認識力、危険回避のための判断力を養い、安全な看護を提供するための実践力を養う 3. 災害医療の基礎的知識を理解し、災害サイクルに応じた看護師の役割を理解できる。 4. 病院及び看護部門の組織、看護管理の本質を理解するとともに、管理的視点で看護活動を理解できる		
	授業内容	備考	
	I 医療安全 1. 医療安全を学ぶ意味 2. 事故防止の考え方 1) 医療事故と看護業務      2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方 3. 診療の補助の事故防止 4. 療養上の世話の事故防止 5. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 1) 業務領域を超えて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3) 危険な思い込みと行動パターン 6. 医療安全とコミュニケーション 7. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 8. 組織的な安全管理体制への取り組み 9. 医療安全対策の国内外の潮流 II 医療機器の取り扱い 1. ME機器の取り扱いと看護 1) シリンジポンプ      2) 輸液ポンプ 3) 低圧持続吸引      4) 心電図      5) 人工呼吸器 III 災害看護 1. 災害医療の基礎知識      2. 災害看護の基礎知識 3. 災害に応じた活動現場別の看護      4. 被災者特性に応じた災害看護の展開 5. 災害とこころのケア      6. 災害時要援助者への支援 7. 災害看護の実際 IV 看護マネジメント 1. 看護管理学とは      2. 看護におけるマネジメント 3. 看護職のキャリアマネジメント      4. 看護サービスのマネジメント 5. マネジメントに必要な知識と技術      6. 看護を取り巻く諸制度	・基礎看護学の各看護技術の中で技術に伴う危険因子及び事故防止策についておさえる ・看護の統合と実践 II 演習につなげる  演習 1. シリンジポンプ 2. 輸液ポンプ	
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	医療安全：医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術：医学書院 災害看護学：メヂカルフレンド社 看護管理：医学書院		

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ			
教育方法	講義		単位・時間数	2単位
開講学期	3年次	2学期		30時間
講師名				
科目目標	1. 今まで学習してきた看護倫理を統合し、倫理的実践ができる基礎を養う 2. 院内および地域における医療の必要性が理解できる 3. 他の専門職の役割を理解し、看護職者の役割が分かる			
授業内容				備考
1. 看護倫理 1) 看護倫理とは 2) 専門職の倫理 3) 倫理的問題へのアプローチ 4) 事例分析  2. 多職種連携・協働 1) 多職種連携・協働の歴史および概念・意義 2) 医療関係者に求められる役割と多職種連携・協働を推進するためのスキル 3) 入退院支援および病院から在宅へのスムーズな移行と多職種連携・協働における支援 4) 多職種連携・協働の実際				<関連科目> 倫理学 医療概論 看護学概論 専門領域  <演習項目> 1. 臨床倫理4分割法を用いた事例分析 2. 多職種連携の実際
評価の方法	筆記試験およびレポート等			
テキスト	看護管理 医学書院 看護倫理 医学書院			

授業科目	看護の統合と実践演習 I		
教育方法	講義 ・ 演習	単位・時間数	2単位 45時間
開講学期	3年次 1学期		
講師名			
科目目標	1. 看護研究の必要性を理解するとともに、看護実践の中での問題を科学的に追究できる姿勢を養う 2. 看護に必要な国際的視野のを養うことができる		
	授業内容		備考
	1. 看護研究 1) 看護研究とは 2) 看護研究の必要性 3) 看護研究の倫理 4) 研究デザイン 5) 文献検索 6) ケーススタディの実際 7) 発表会の企画・運営  2. 国際看護 1) 看護のグローバル化 2) 国際看護学とは 3) 多様な文化と看護 4) 看護の国際協力活動		<関連科目> 看護学概論 看護倫理 専門領域  <演習項目> 1. 実習の事例でケーススタディをまとめる 2. 発表会の企画運営
評価の方法	筆記試験およびレポート等		
テキスト	看護研究：医学書院 看護倫理：医学書院 講師資料		

授業科目	看護の統合と実践演習Ⅱ		
教育方法	講義	単位・時間数	2単位 45時間
開講学期	3年次 2学期		
講師名			
科目目標	1. 複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる判断能力を養う		
	授業内容	備考	
	<p>1. 看護ケアのマネジメント</p> <p>1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能</p> <p>(1) 看護実践能力(知識・実践的思考力・行動)</p> <p>(2) 臨床判断能力(気づき、解釈、反応する)</p> <p>2) 患者の権利の尊重</p> <p>3) 安全管理</p> <p>4) 看護業務の実践</p> <p>(1) 看護業務</p> <p>(2) 看護基準と業務手順</p> <p>(3) クリティカルパス</p> <p>(4) 情報の活用</p> <p>(5) 日常業務のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位と多重課題への対応</li> <li>・タイムマネジメント</li> <li>・患者への説明と同意</li> <li>・看護師間の連携・協働</li> <li>・多職種との連携・協働</li> </ul> <p>(6) EBN/EBM/EBP</p>	<p>&lt;演習項目&gt;</p> <p>1. 臨床の場面を設定した状況に応じた演習</p> <p>2. 安全管理の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KYT</li> <li>・事故・インシデントの報告</li> <li>・患者の誤認防止</li> <li>・放射線の被ばく防止策</li> <li>・薬剤の曝露防止</li> </ul>	
評価の方法	筆記およびレポート、ケーススタディ等		
テキスト	看護管理 : 医学書院 看護倫理 : 医学書院		